

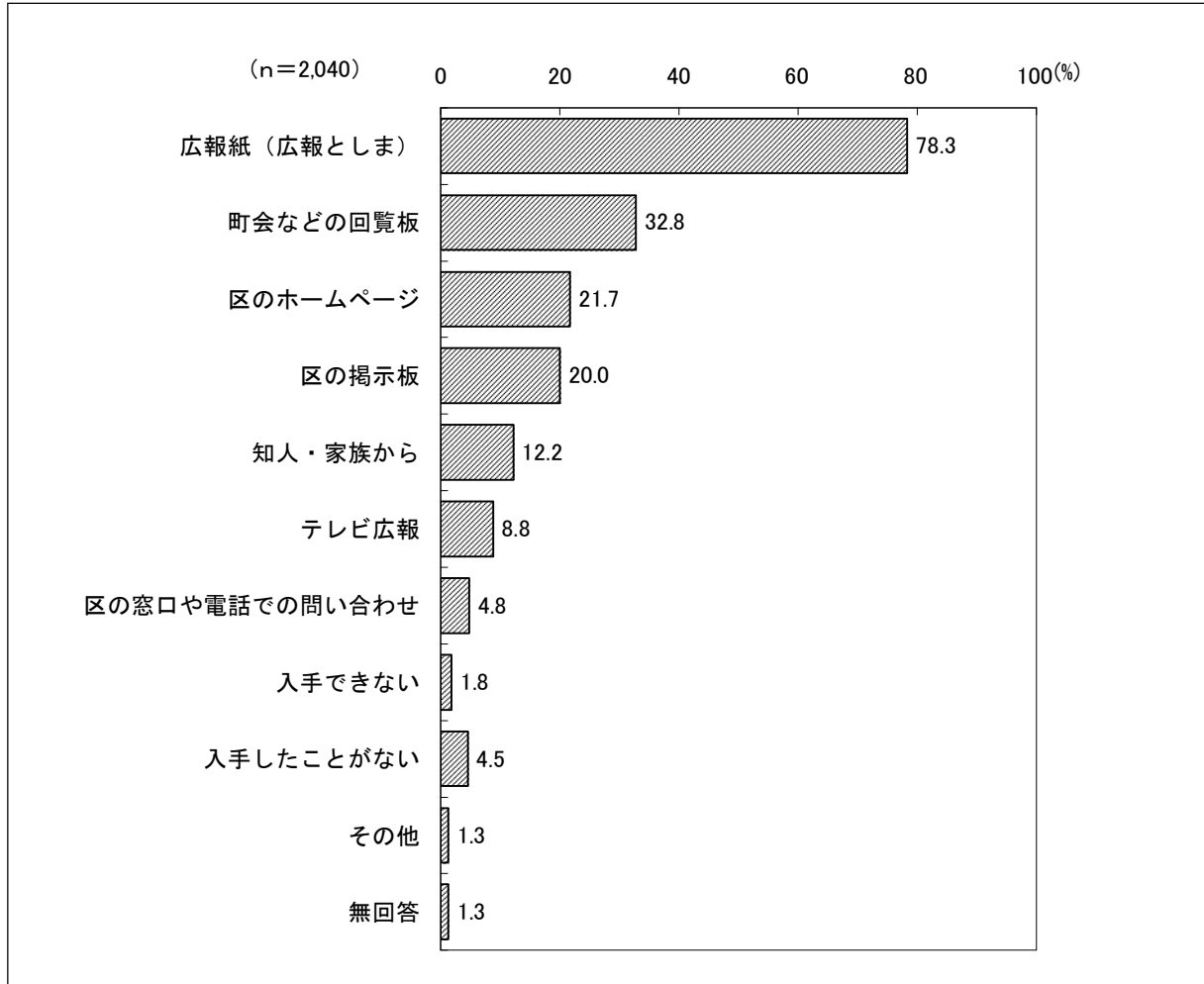
第3章

区の政策について

第3章 区の政策について

1-① 区の情報を知るための手段〔問5〕

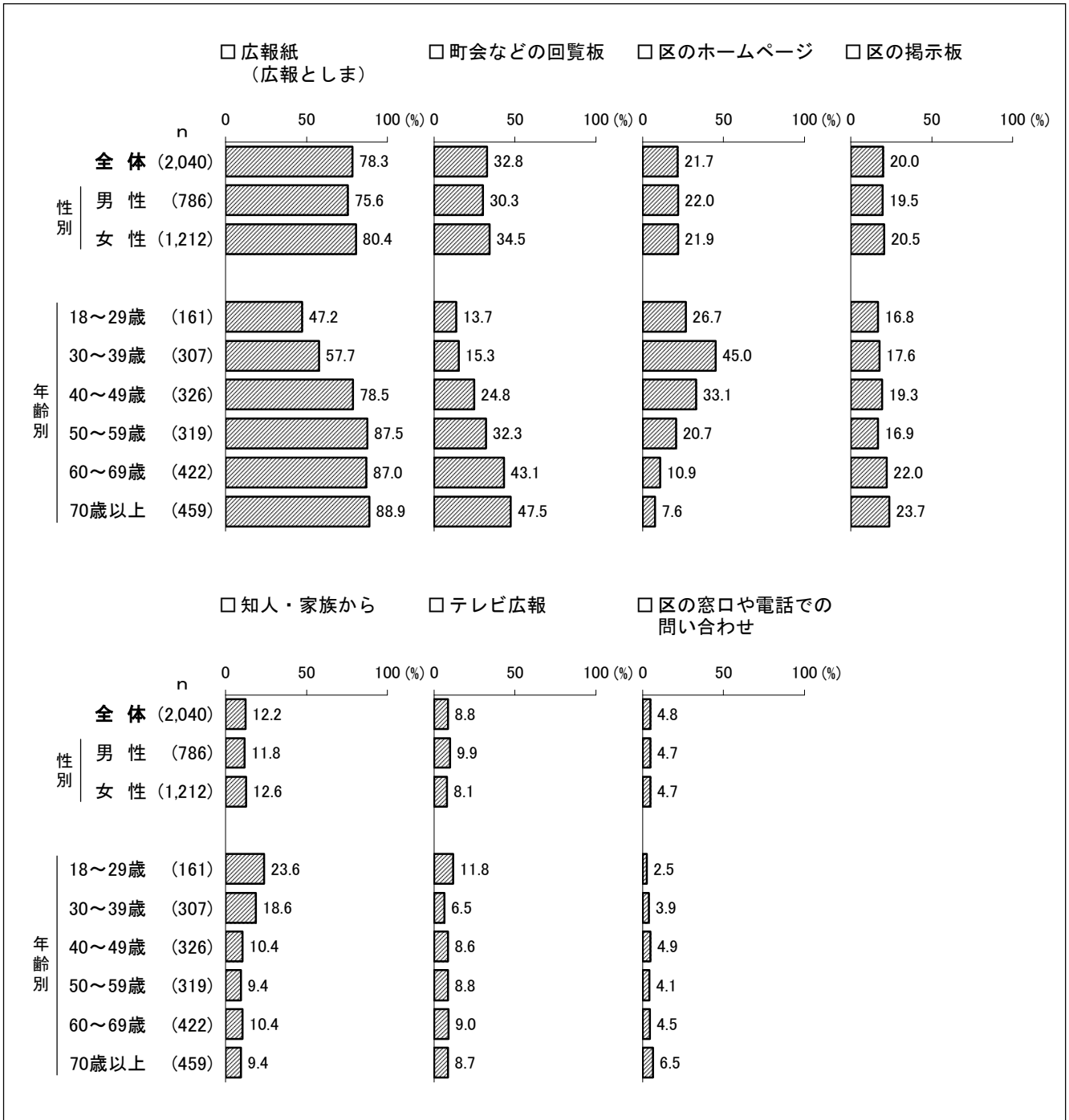
- 区の情報を知るための手段について聞いたところ、「広報紙（広報としま）」（78.3%）が約8割と最も高く、以下、「町会などの回覧板」（32.8%）、「区のホームページ」（21.7%）、「区の掲示板」（20.0%）などとなっている。



※あてはまるものすべて選択

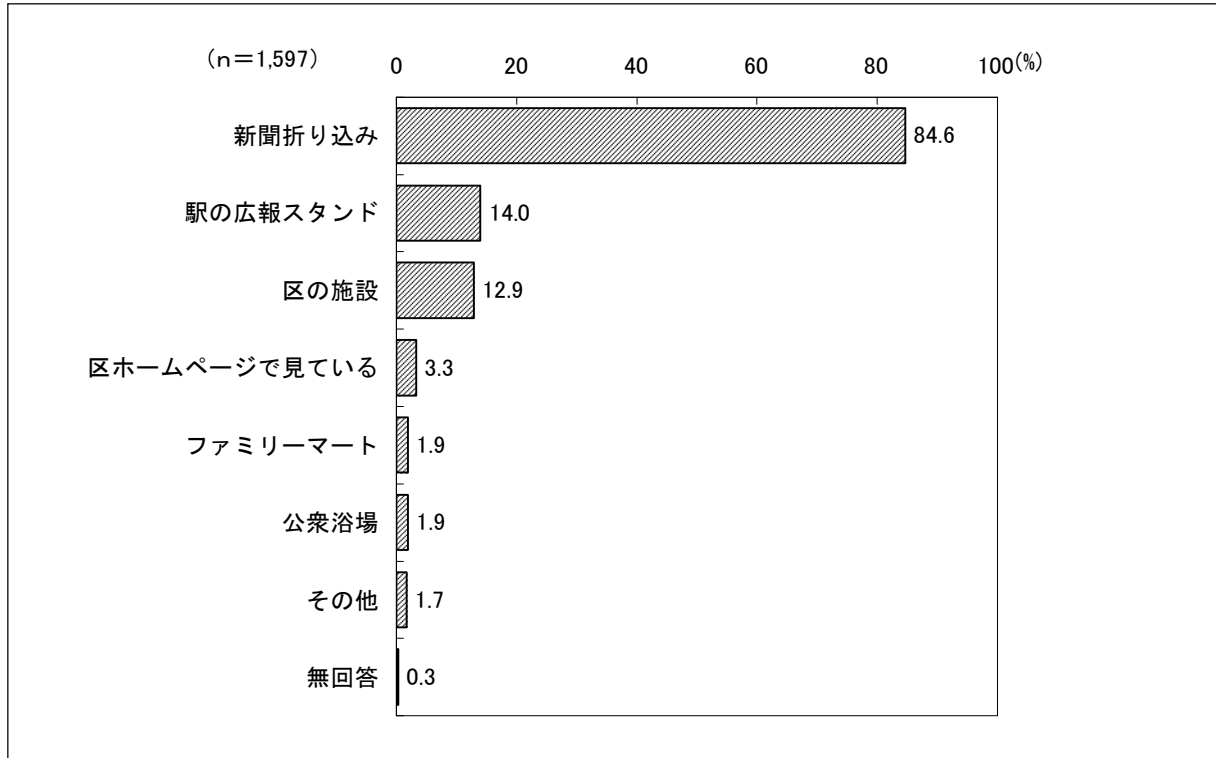
【性別・年齢別】

- 性別で見ると、「広報紙（広報としま）」は、女性（80.4%）が男性（75.6%）よりも4.8ポイント高くなっている。その他の項目では大きな違いはみられない。
- 年齢別で見ると、「広報紙（広報としま）」は年齢が上がるほど高くなり、70歳以上（88.9%）で約9割となっている。また、「町会などの回覧板」も年齢が上がるほど高くなり、70歳以上（47.5%）で最も高くなっている。



1-② 広報紙の入手方法〔問5-1〕

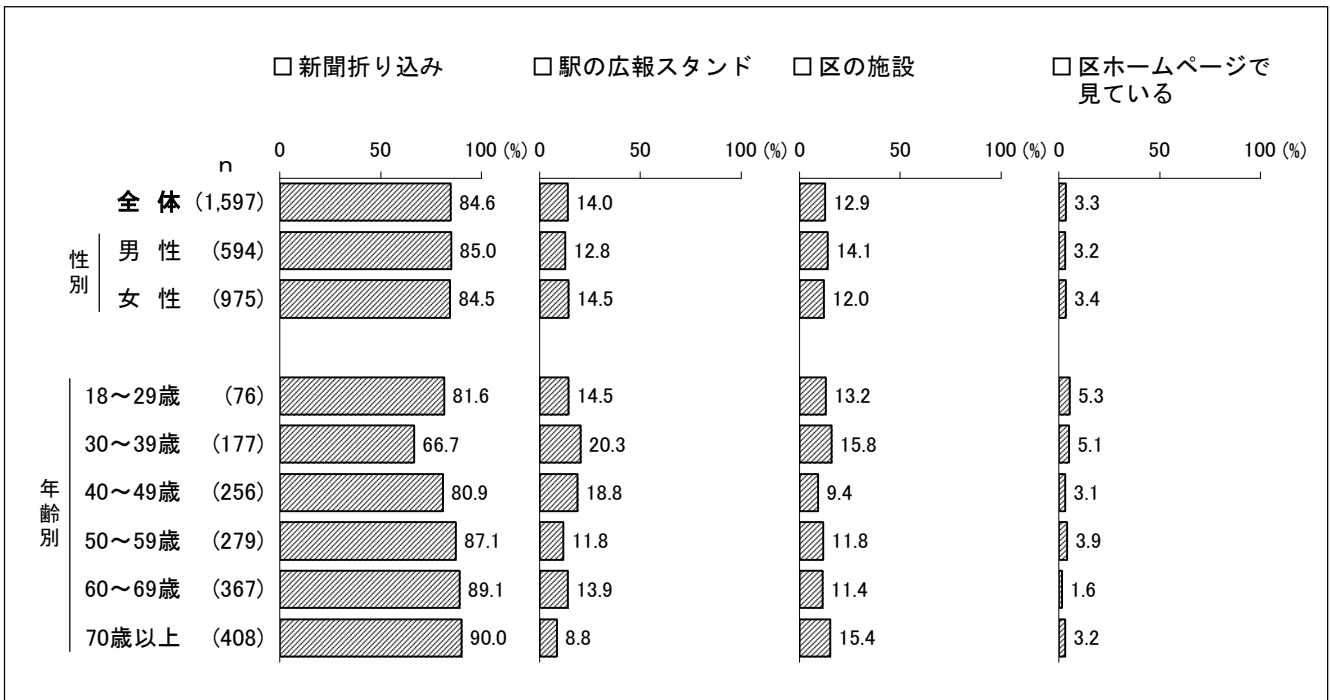
- 〔問5〕の区の情報を知るための手段についての設問に対し、「広報紙（広報としま）と答えた方に、広報紙の入手方法について聞いたところ、「新聞折り込み」（84.6%）が8割台半ばと最も高く、以下、「駅の広報スタンド」（14.0%）、「区の施設」（12.9%）などとなっている。



※あてはまるものすべて選択

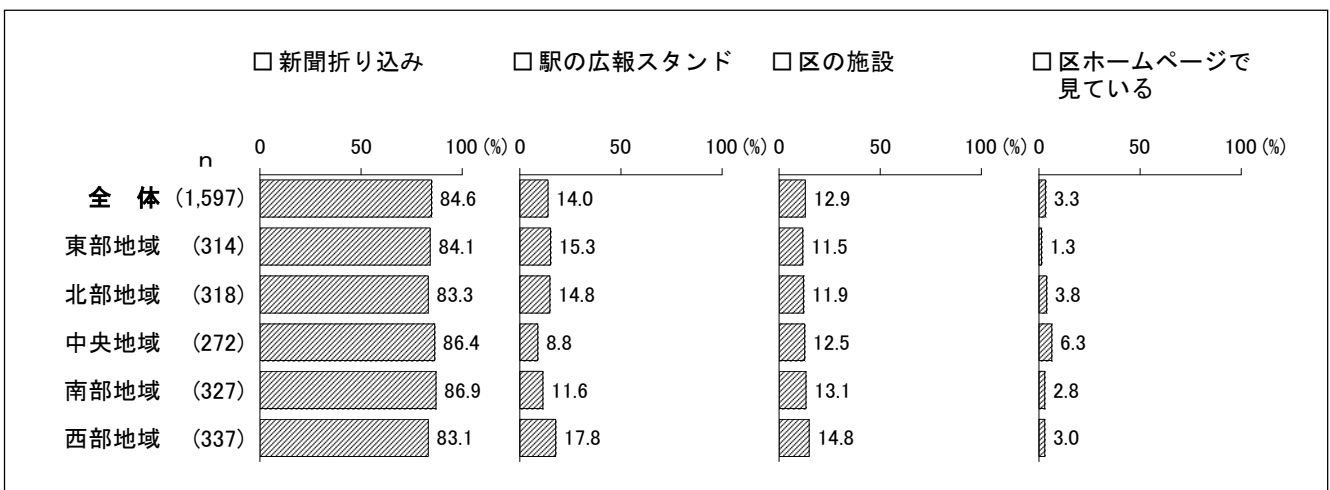
【性別・年齢別（上位4項目）】

- 性別で見ると、どの項目でも大きな違いはみられない。
- 年齢別で見ると、「新聞折り込み」は30～39歳（66.7%）を除く全ての年齢で、8割を超えている。「駅の広報スタンド」は30～39歳（20.3%）で2割となっている。



【地域別（上位4項目）】

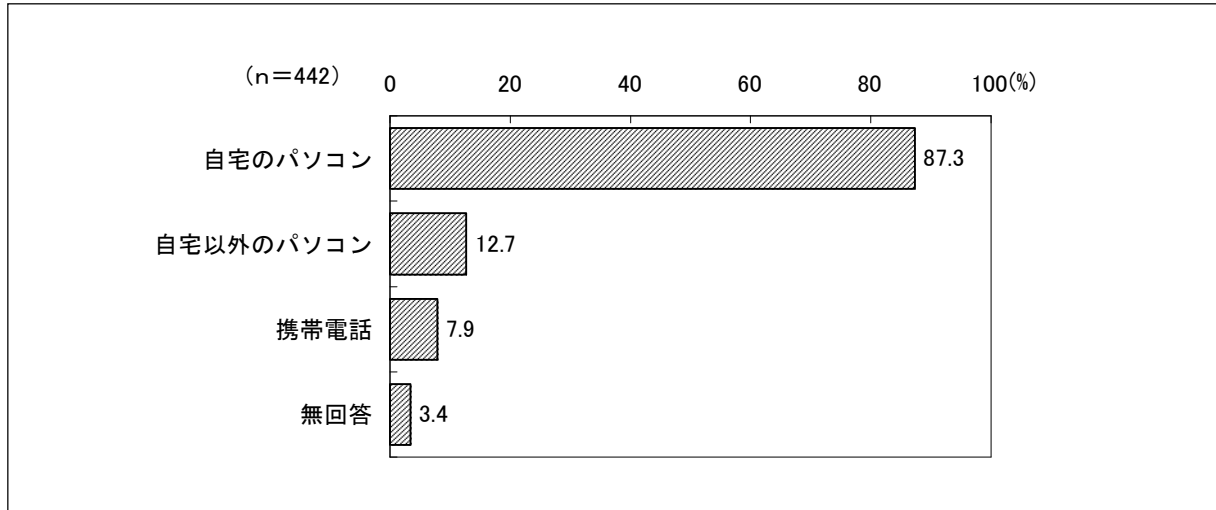
- 「駅の広報スタンド」は中央地域（8.8%）を除く全ての地域で、1割を超えている。



※ 地域の具体的区分は3ページの（6）居住地域名を参照

1-③ 豊島区公式ホームページを見るための手段〔問5-2〕

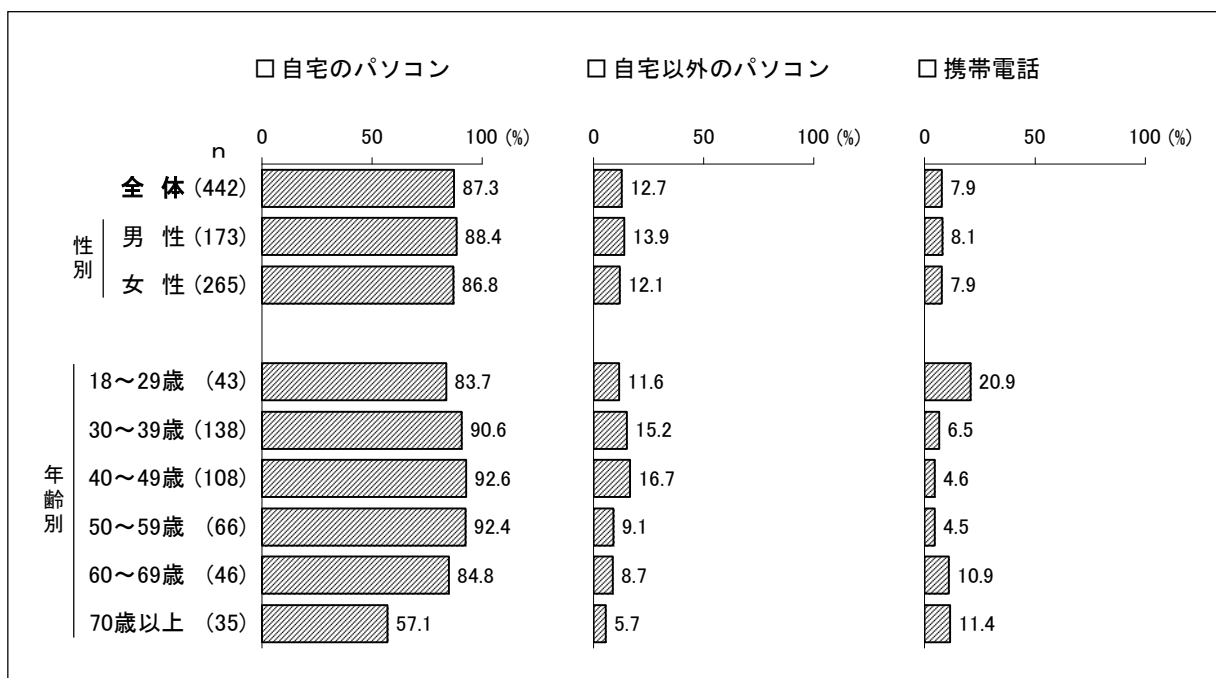
- [問5]の区の情報を知るための手段についての設問に対し、「区のホームページ」と答えた方に、豊島区公式ホームページを見るための手段について聞いたところ、「自宅のパソコン」(87.3%)が最も高くなっている。



※あてはまるものすべて選択

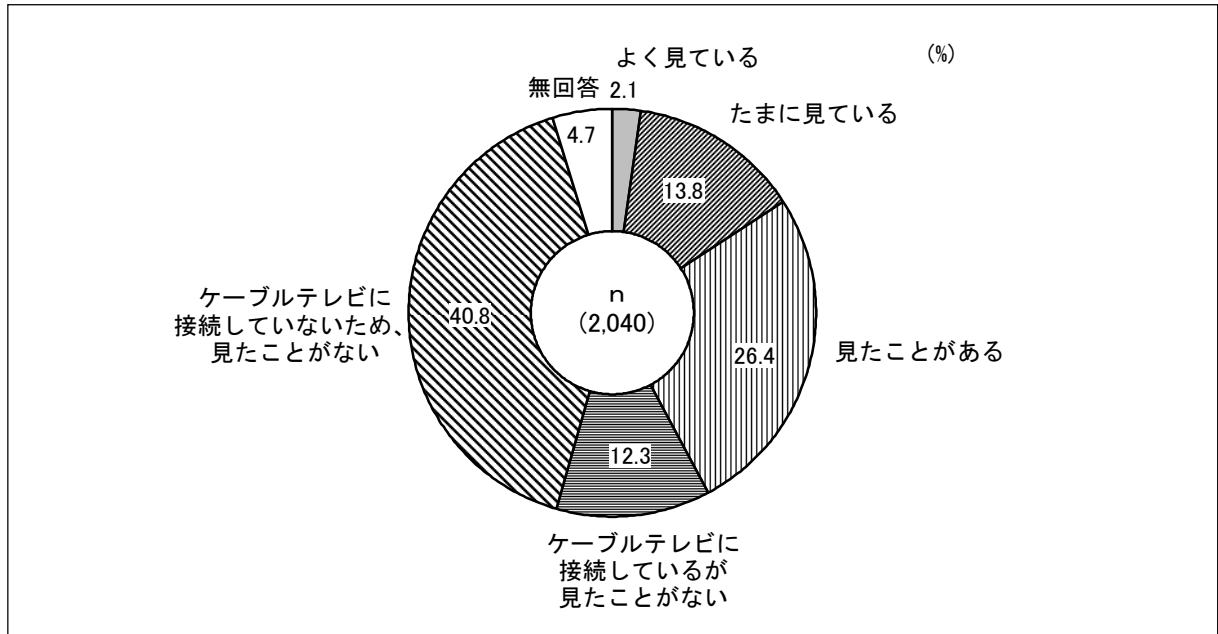
【性別・年齢別】

- 性別で見ると、全ての項目で大きな違いはみられない。
- 年齢別で見ると、「自宅のパソコン」は40～49歳(92.6%)と50～59歳(92.4%)、30～39歳(90.6%)で9割台となっている。「携帯電話」は18～29歳(20.9%)で2割となっている。



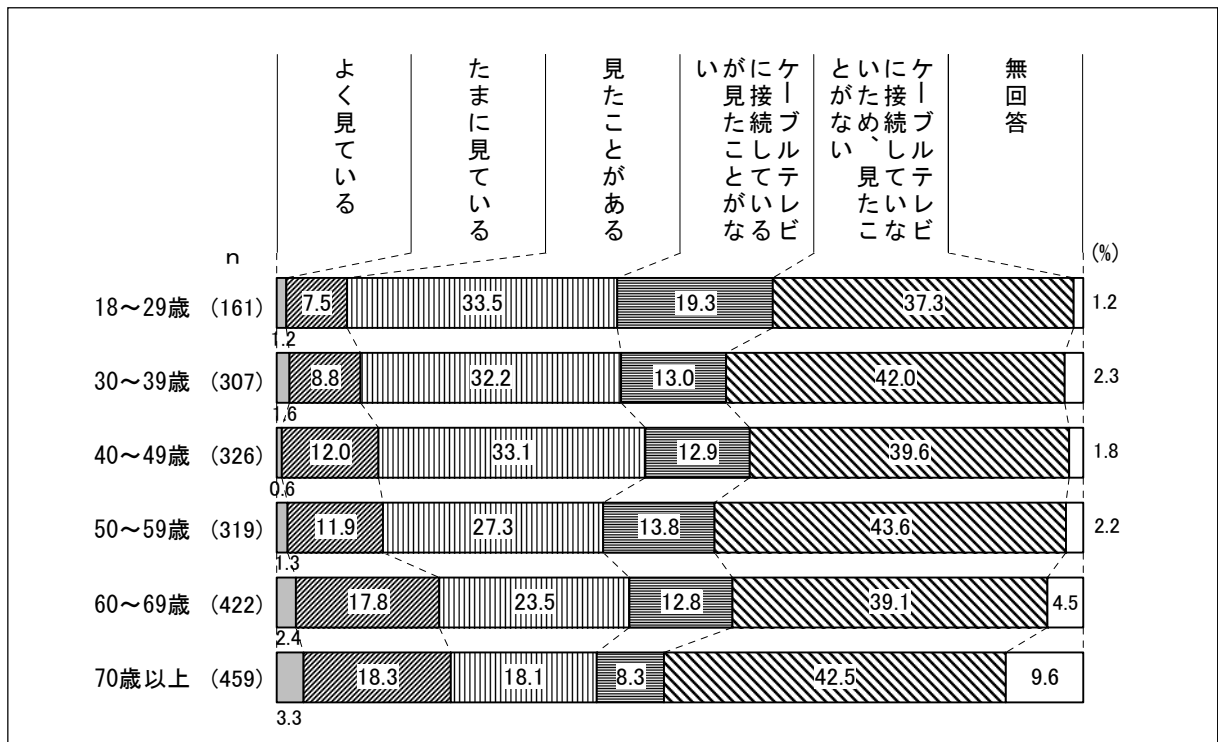
2 行政情報番組の視聴経験〔問6〕

- 行政情報番組の視聴経験について聞いたところ、「ケーブルテレビに接続していないため、見たことがない」(40.8%) が4割と最も高くなっている。
- 「よく見ている」(2.1%) と「たまに見ている」(13.8%) を合わせた“見る” (15.9%) が1割台半ばとなっている。



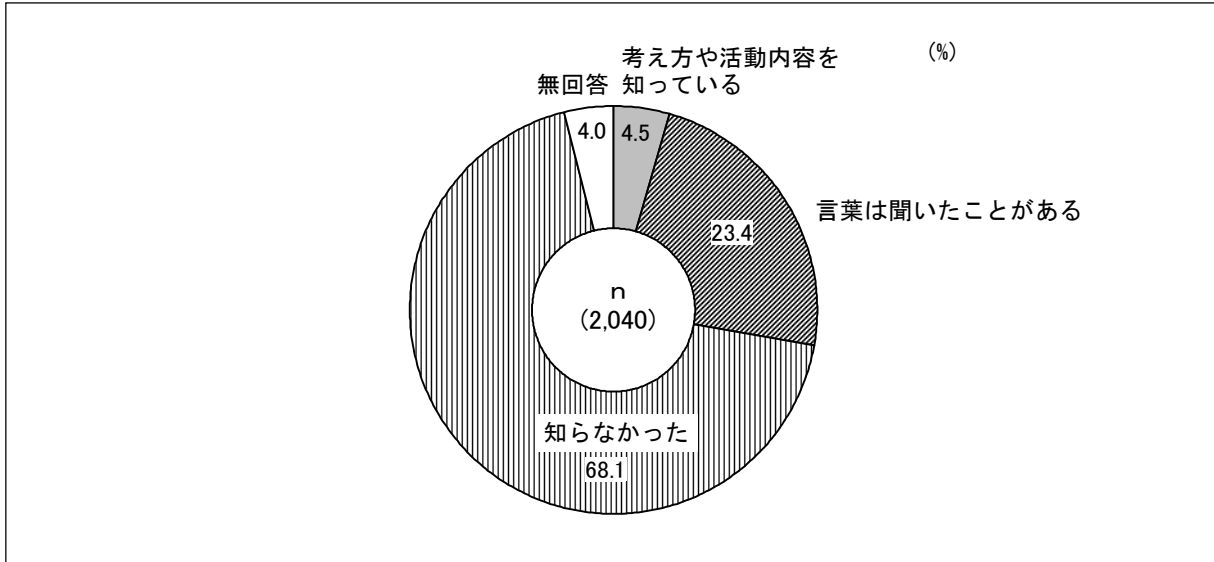
【年齢別】

- “見る” は70歳以上 (21.6%) で2割を超えている。
- どの年齢でも「ケーブルテレビに接続していないため、見たことがない」が高くなっている。



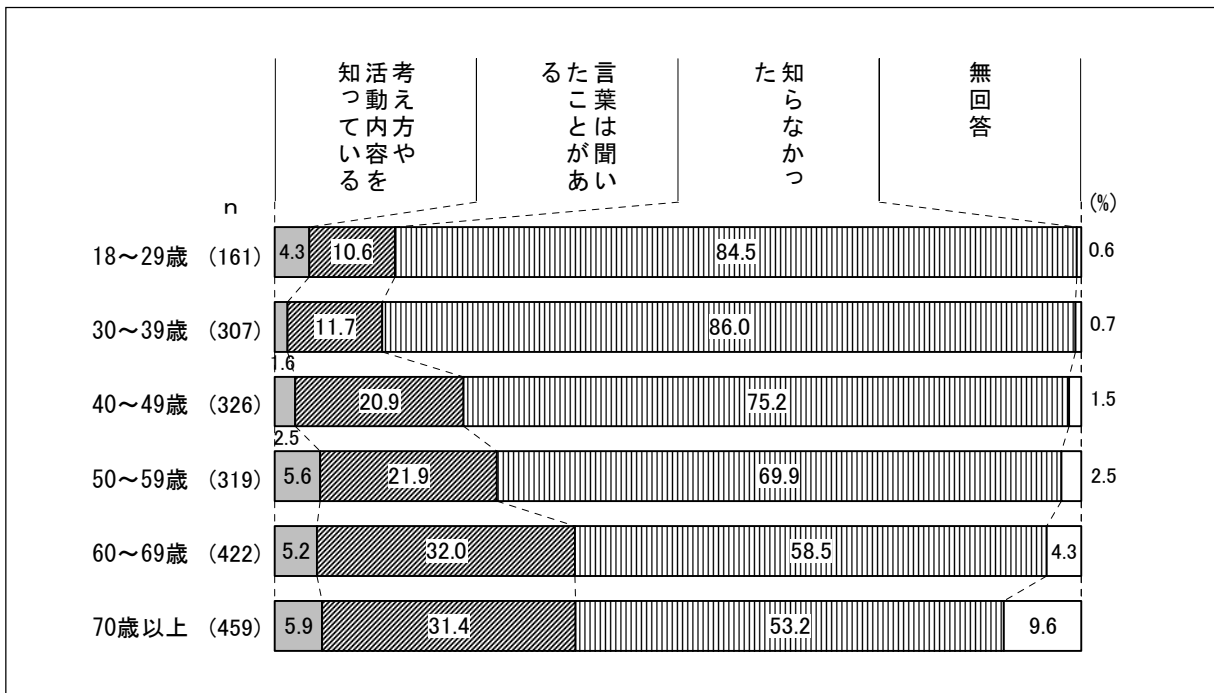
3 豊島区の「セーフコミュニティ」活動について〔問7〕

- 豊島区の「セーフコミュニティ」活動について聞いたところ、「知らなかった」(68.1%)が約7割、「考え方や活動内容を知っている」(4.5%)と「言葉を聞いたことがある」(23.4%)を合わせた“知っている”(27.9%)が約3割となっている。



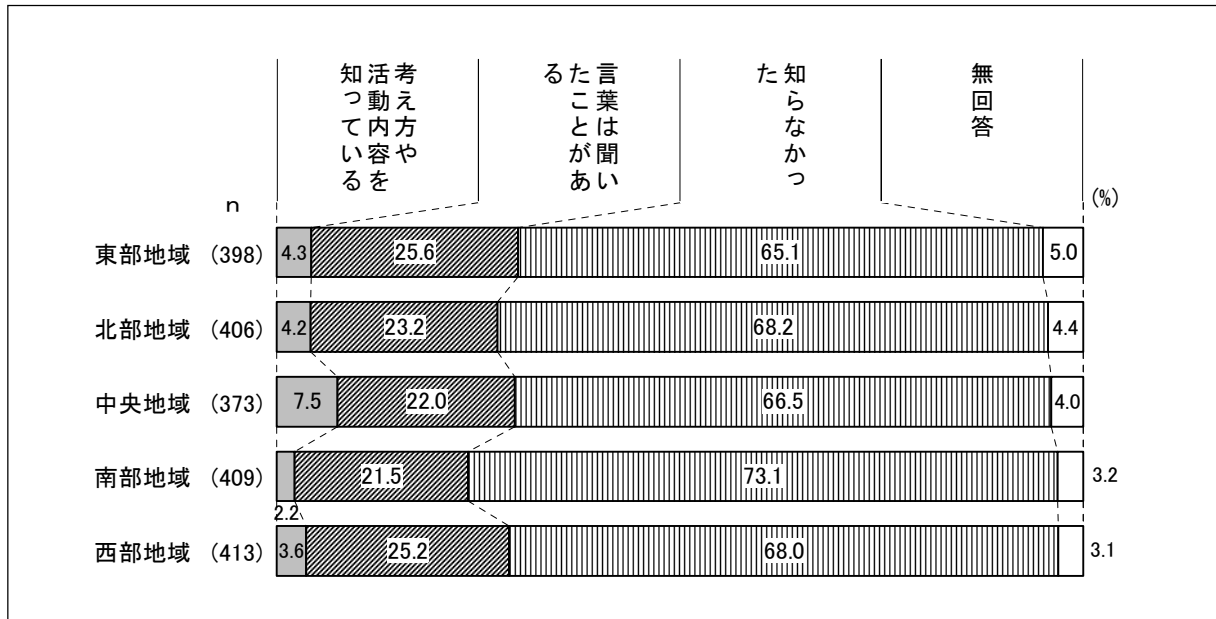
【年齢別】

- “知っている”は60～69歳(37.2%)と70歳以上(37.3%)でほぼ同じ割合で高くなっている。



【地域別】

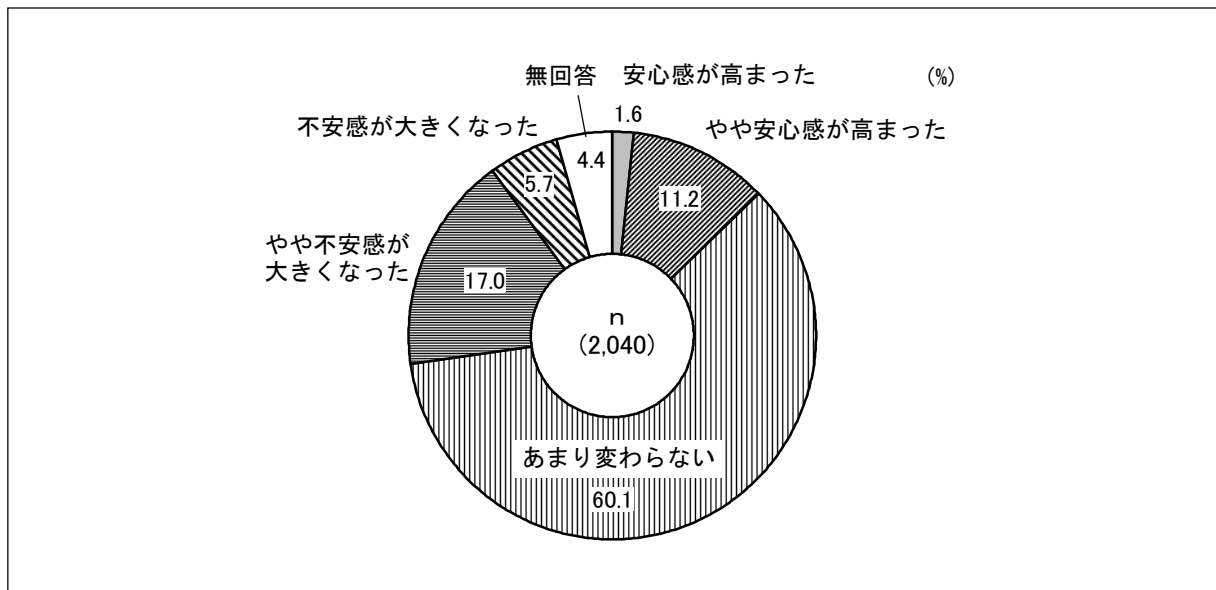
- “知っている” は北部地域（27.4%）と南部地域（23.7%）を除く地域で約3割となっている。



※ 地域の具体的区分は3ページの(6)居住地域名を参照

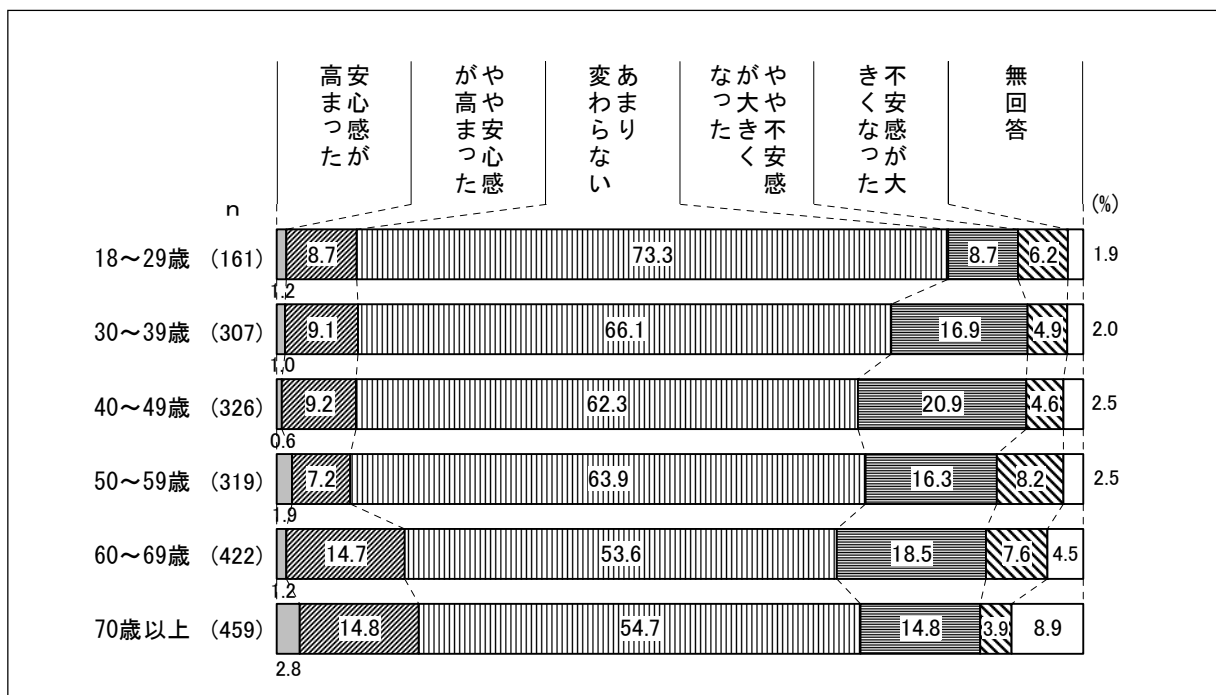
4 事故やけが、犯罪、災害などに対する安心感について〔問8〕

- 事故やけが、犯罪、災害などに対する安心感について聞いたところ、「あまり変わらない」(60.1%)が6割と最も高くなっている。
- 「安心感が高まった」(1.6%)と「やや安心感が高まった」(11.2%)を合わせた“安心感が高まった” (12.8%)は1割を超えている。
- 「やや不安感が大きくなった」(17.0%)と「不安感が大きくなった」(5.7%)を合わせた“不安感が大きくなった” (22.7%)は2割を超えている。



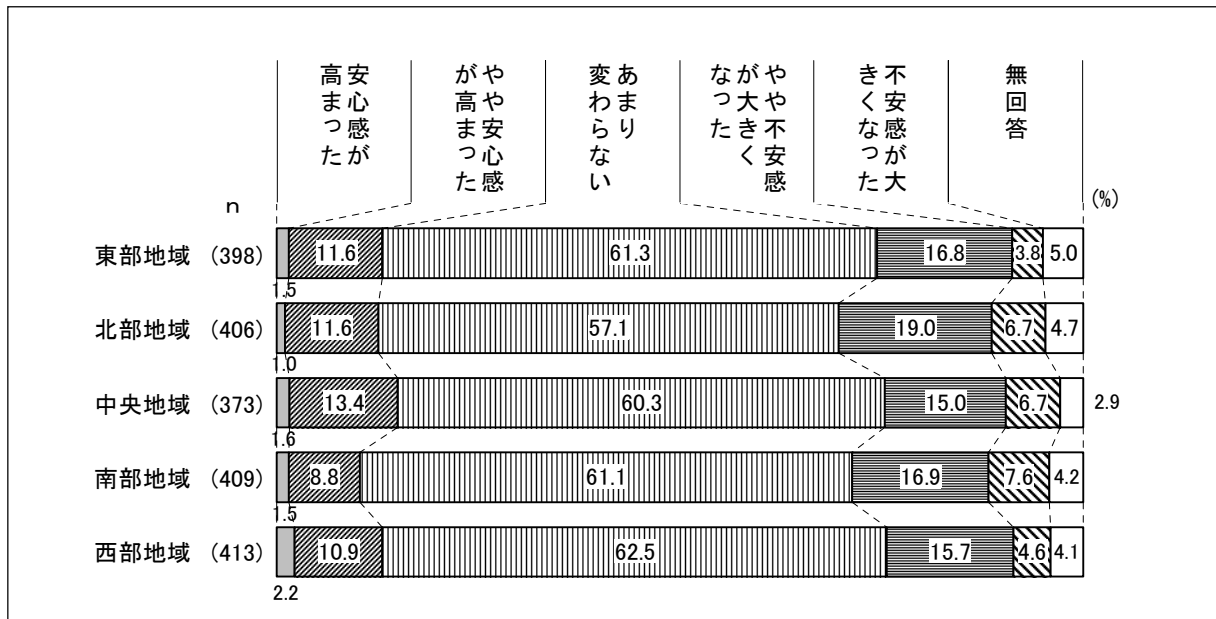
【年齢別】

- “安心感が高まった”は70歳以上 (17.6%)で最も高くなっている。
- “不安感が大きくなった”は40～49歳 (25.5%)、50～59歳 (24.5%)、60～69歳 (26.1%)で2割台半ば、30～39歳 (21.8%)で2割を超えている。



【地域別】

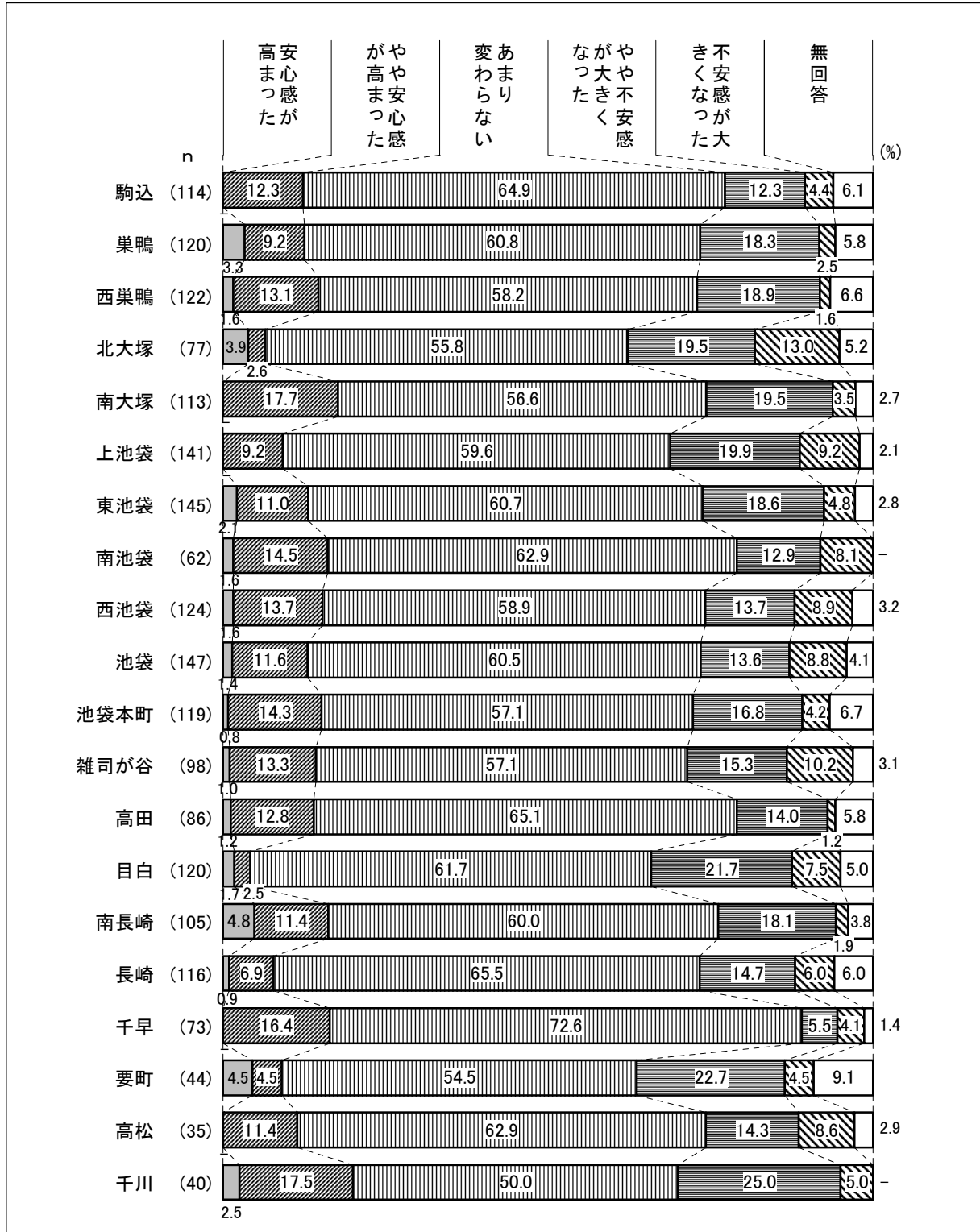
- “安心感が高まった”は中央地域（15.0%）で最も高くなっている。
- “不安感が大きくなった”は北部地域（25.7%）と南部地域（24.5%）で2割台半ばとなっている。



※ 地域の具体的区分は3ページの（6）居住地域名を参照

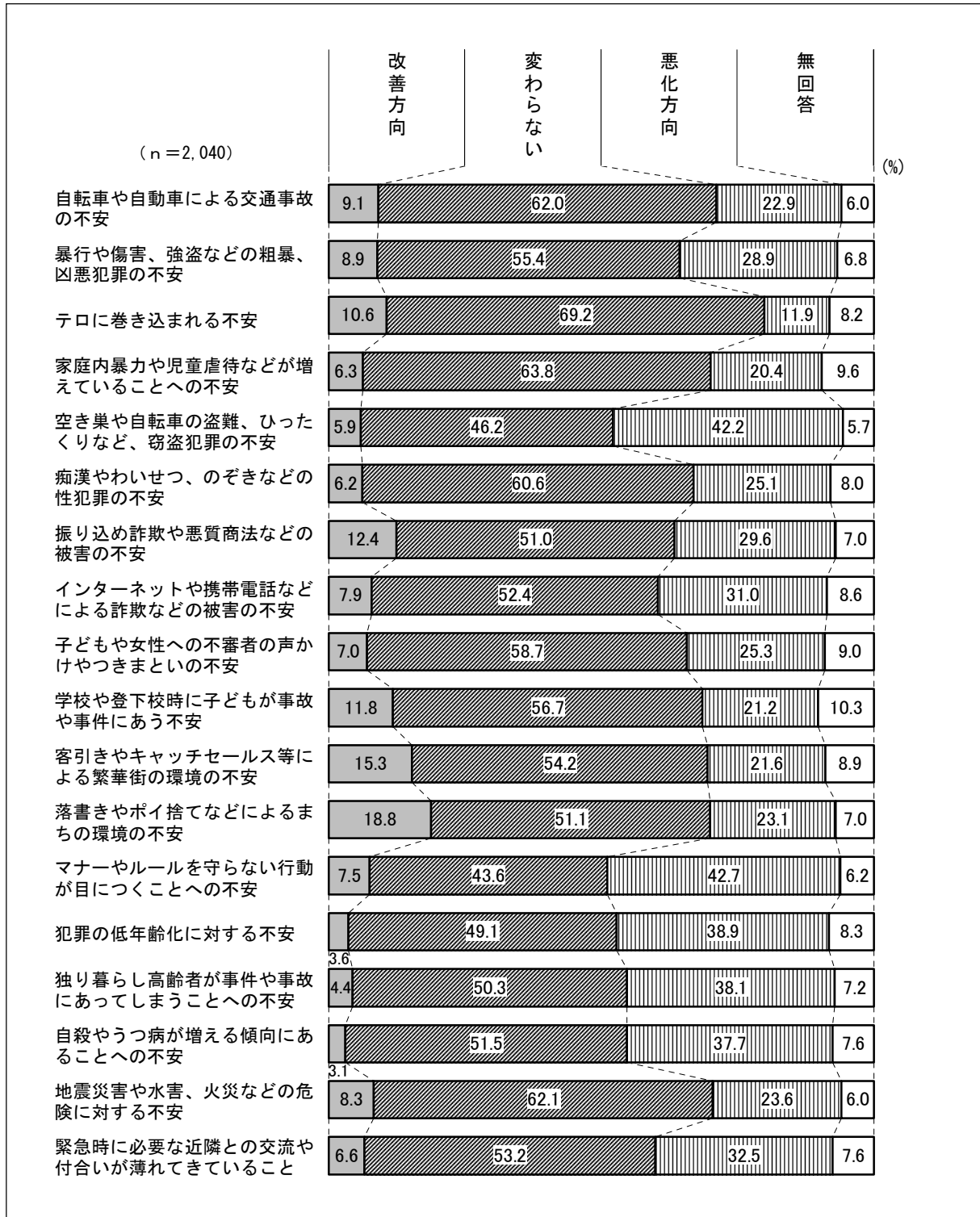
【町別】

- “安心感が高まった”は千川（20.0%）が、“不安感が大きくなった”は北大塚（32.5%）が最も高い割合となっている。
- 千早では唯一“安心感が高まった”（16.4%）の方が“不安感が大きくなった”（9.6%）よりも高くなっている。



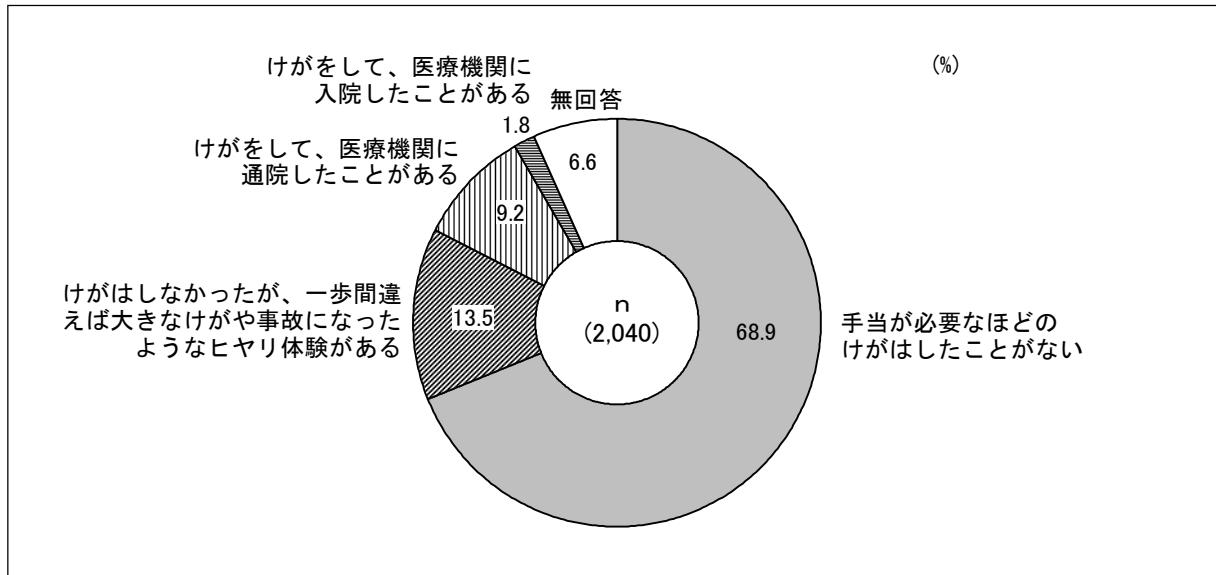
5 生活の中の不安の変化について〔問9〕

- 生活の中の不安の変化について聞いたところ、「改善方向」は“落書きやポイ捨てなどによるまちの環境の不安”（18.8%）で約2割と最も高く、以下、“客引きやキャッチセールス等による繁華街の環境の不安”（15.3%）、“振り込め詐欺や悪質商法などの被害の不安”（12.4%）などとなっている。



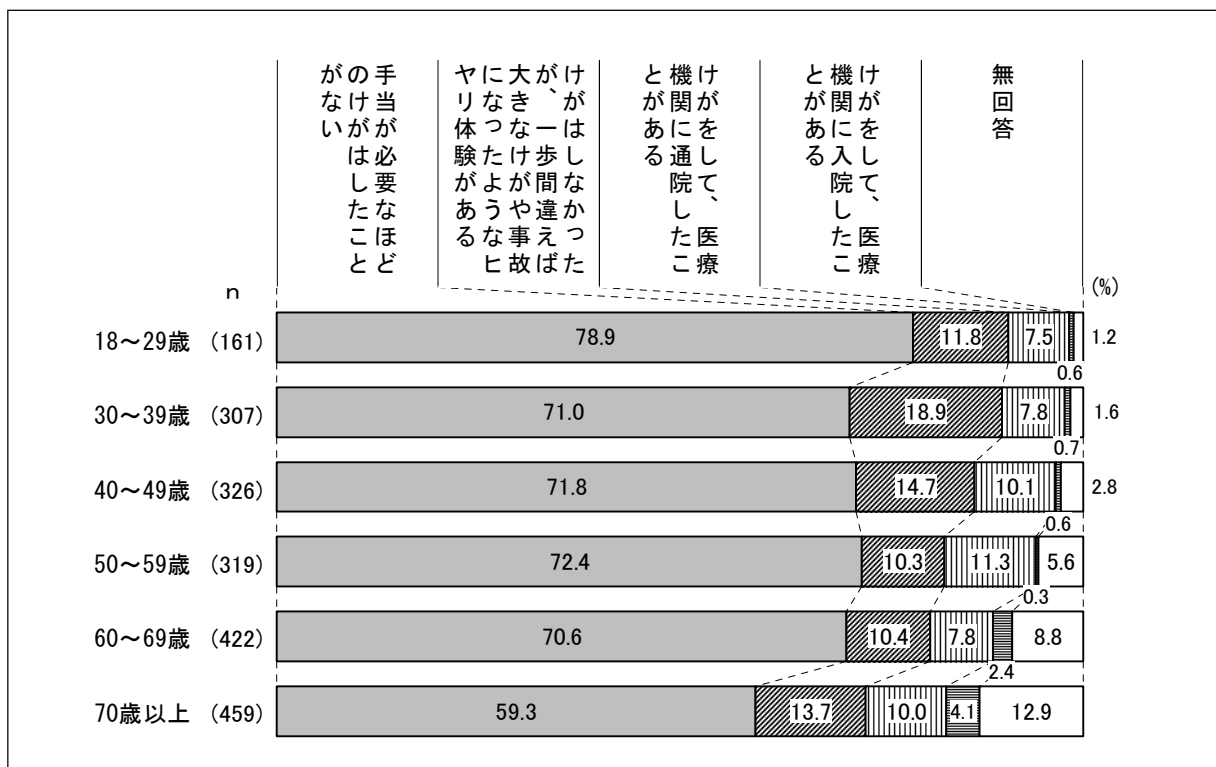
6-① 過去1年間のなかで最も印象に残っているけがや事故〔問10〕

- 過去1年間のなかで最も印象に残っているけがや事故の経験を聞いたところ、「手当が必要なほどのけがはしたことがない」(68.9%)が約7割と最も高く、以下、「けがはしなかったが、一歩間違えば大きなけがや事故になったようなヒヤリ体験がある」(13.5%)、「けがをして、医療機関に通院したことがある」(9.2%)などとなっている。



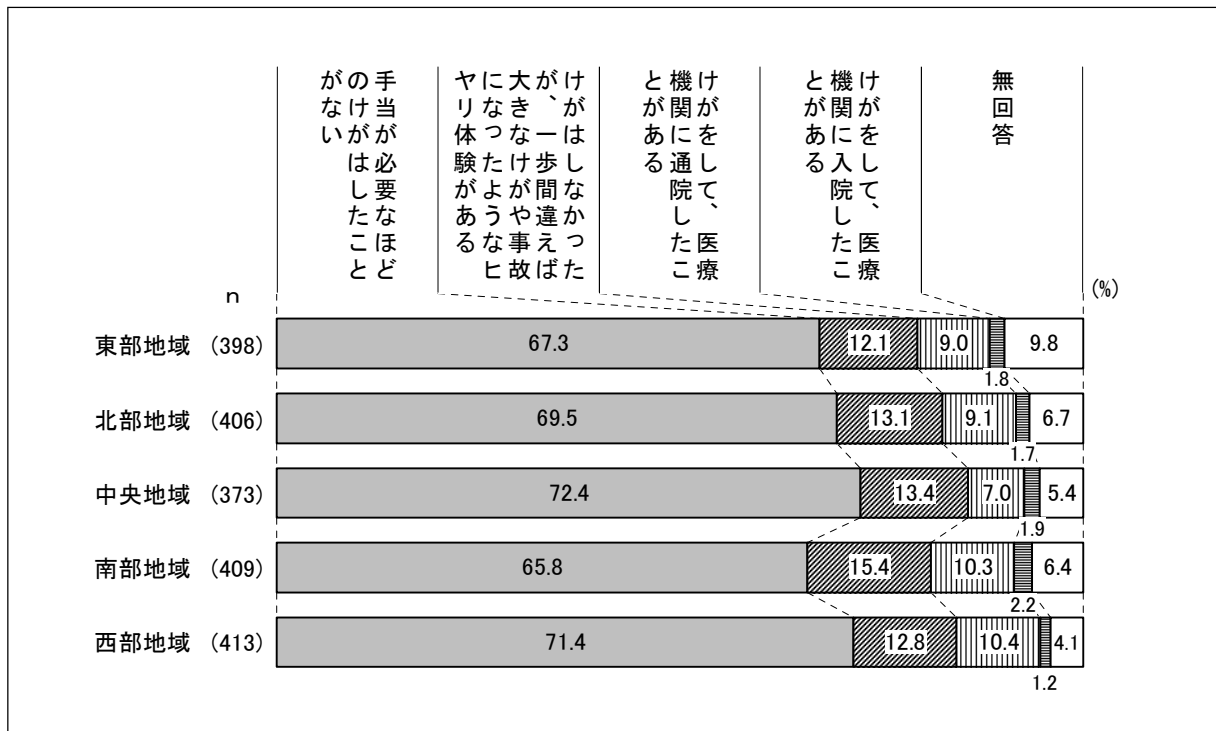
【年齢別】

- 「手当が必要なほどのけがはしたことがない」はおおむね年齢が下がるほど高くなる傾向がみられ、18～29歳(78.9%)で約8割となっている。
- 「けがはしなかったが、一歩間違えば大きなけがや事故になったようなヒヤリ体験がある」は30～39歳(18.9%)で約2割となっている。



【地域別】

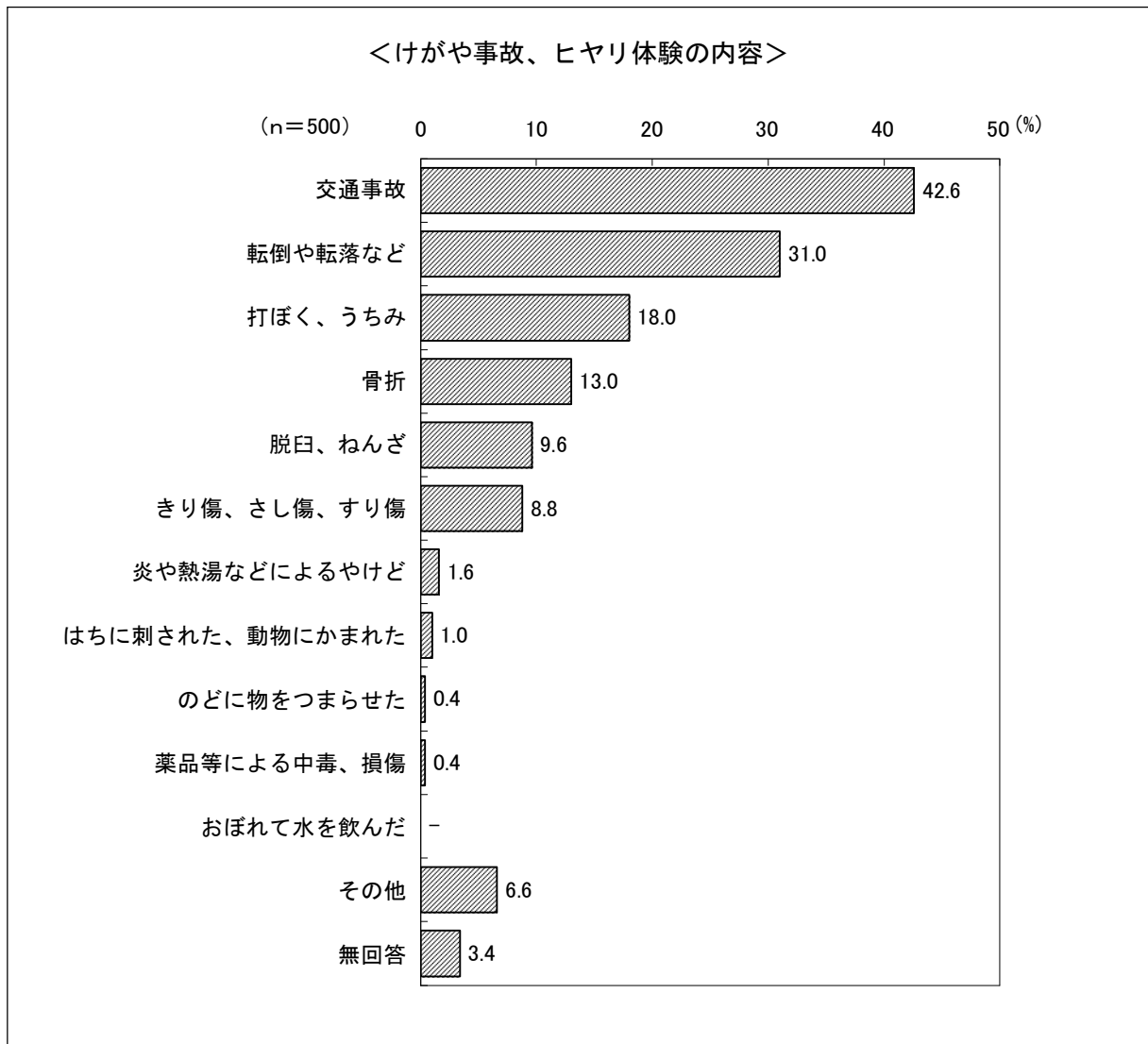
- 「手当が必要なほどのけがはしたことがない」は中央地域（72.4%）と西部地域（71.4%）で7割を超えている。
- その他の項目では、大きな違いはみられない。



※ 地域の具体的区分は3ページの(6)居住地域名を参照

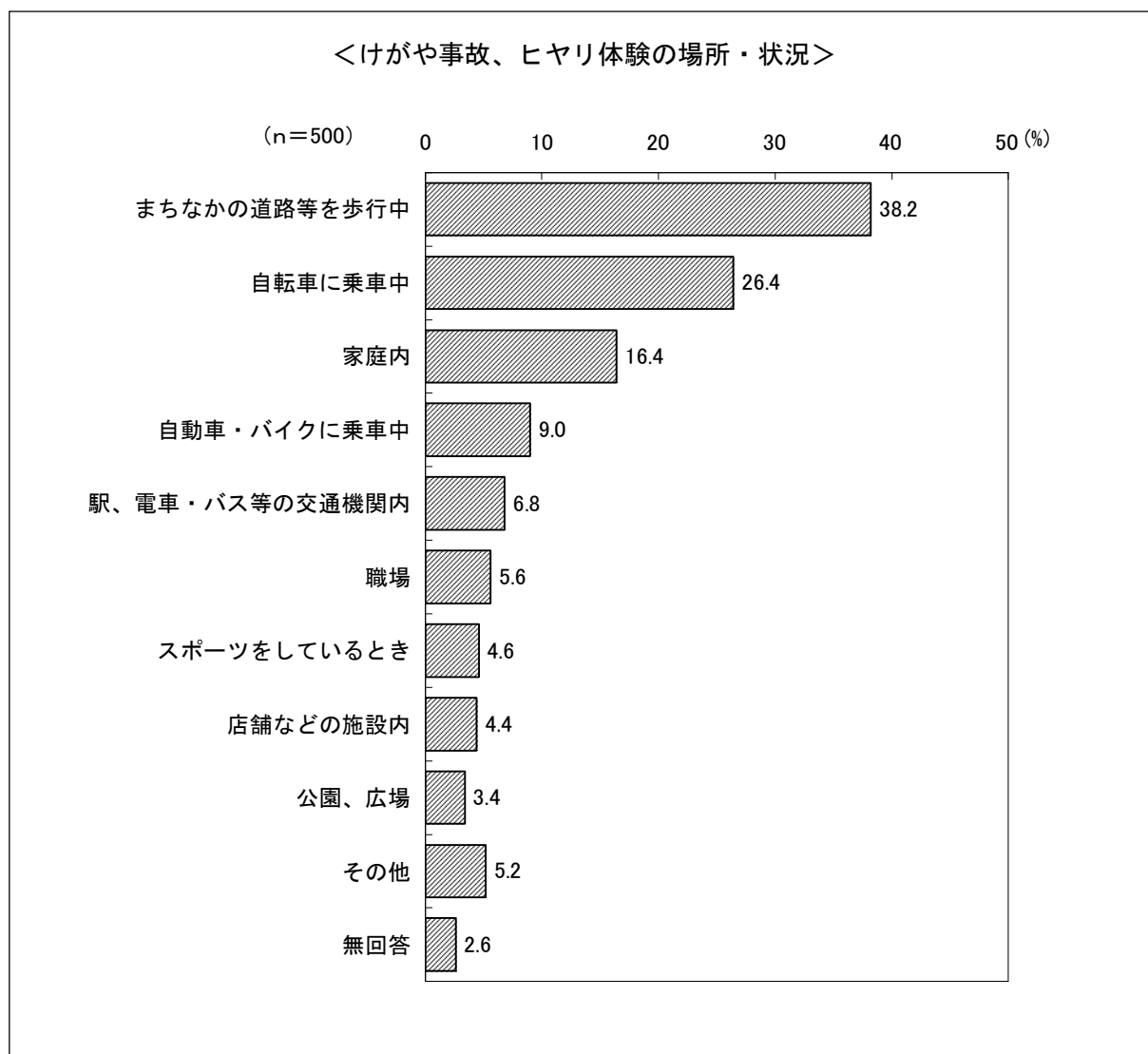
6-② けがや事故、ヒヤリ体験の内容と場所〔問10-1〕

- 〔問10〕の過去1年間のなかで最も印象に残っているけがや事故の設問に対し、「けがはしなかったが、一歩間違えば大きなけがや事故になったようなヒヤリ体験がある」「けがをして、医療機関に通院したことがある」「けがをして、医療機関に入院したことがある」と答えた方に、「けがや事故、ヒヤリ体験の内容について聞いたところ、「交通事故」(42.6%)が4割を超え最も高く、以下、「転倒や転落など」(31.0%)、「打ぼく、うちみ」(18.0%)などとなっている。



※あてはまるものすべて選択

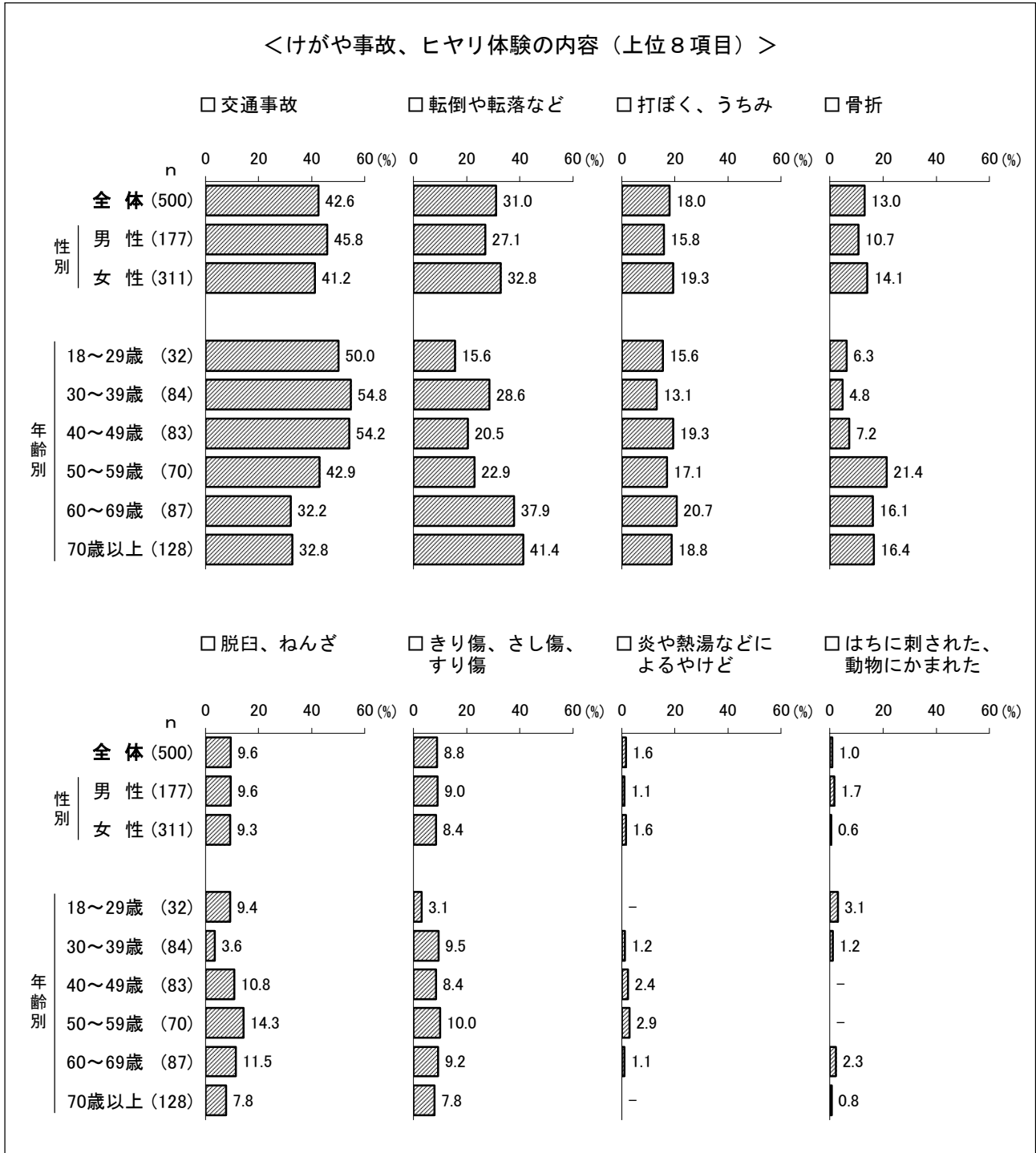
- けがや事故、ヒヤリ体験をした場所について聞いたところ、「まちなかの道路等を歩行中」(38.2%) が約4割と最も高く、以下、「自転車に乗車中」(26.4%)、「家庭内」(16.4%) などとなっている。



※あてはまるものすべて選択

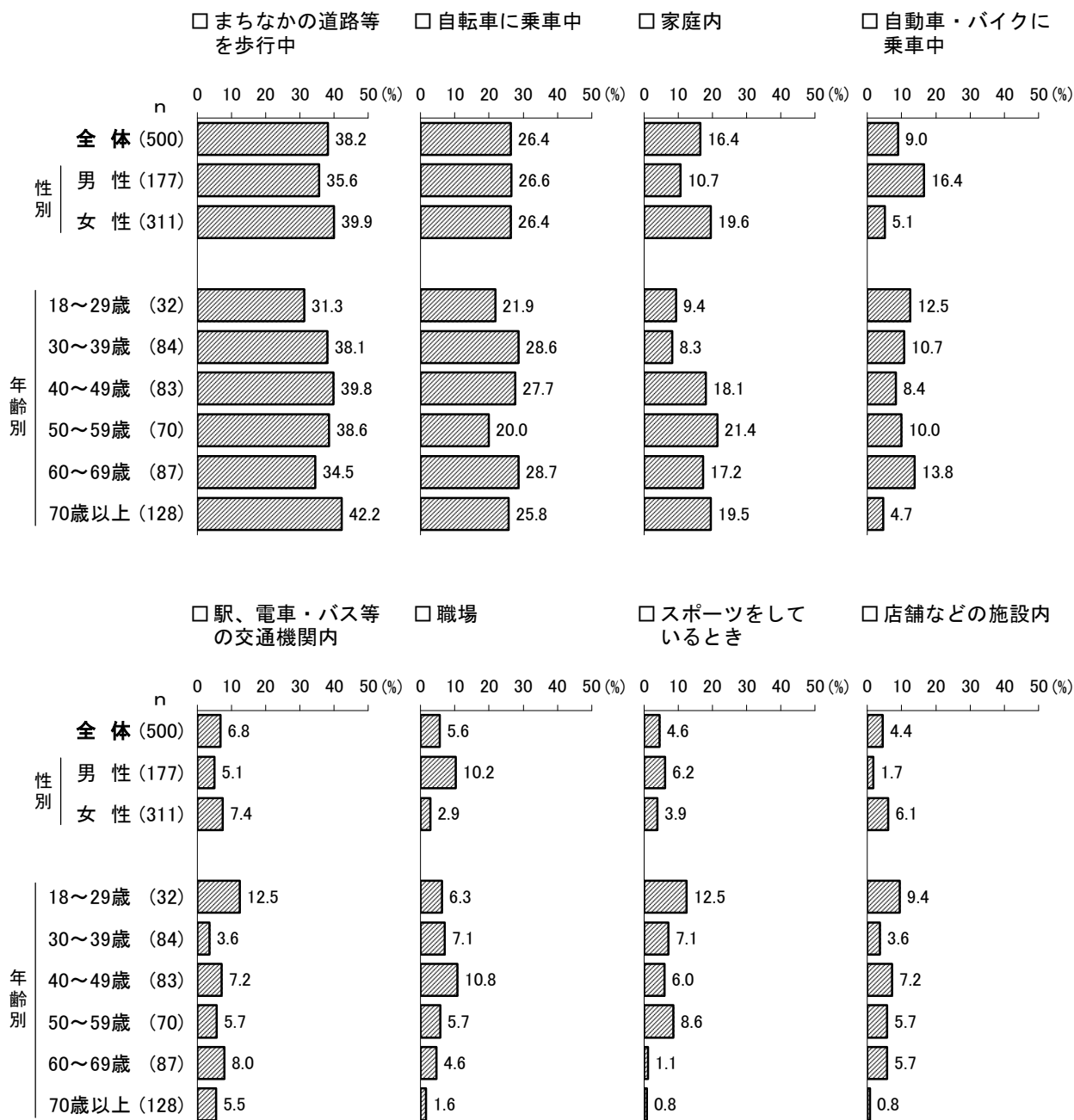
【性別・年齢別】

- 性別で見ると、「転倒や転落など」は女性が（32.8%）が男性（27.1%）よりも5.7ポイント高くなっている。
- 年齢別で見ると、「交通事故」は30～39歳（54.8%）と40～49歳（54.2%）で5割台半ばとなっている。「転倒や転落など」は70歳以上（41.4%）で唯一4割を超えている。



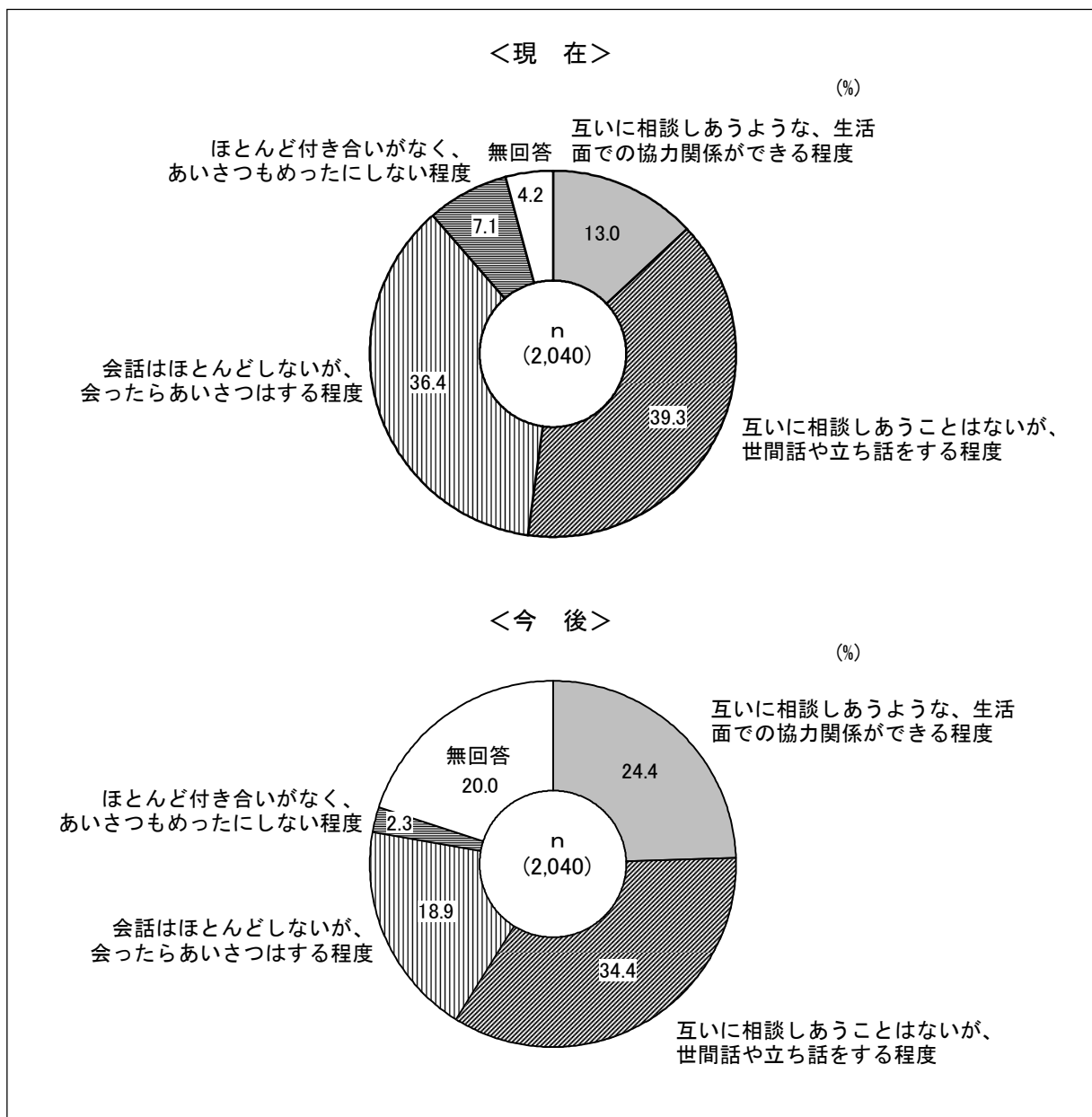
- 性別で見ると、「まちなかの道路等を歩行中」は女性が（39.9%）が男性（35.6%）よりも4.3ポイント高くなっている。「家庭内」でも女性（19.6%）が男性（10.7%）よりも8.9ポイント高くなっている。逆に、「自転車・バイクに乗車中」は男性（16.4%）が女性（5.1%）よりも11.3ポイント高くなっている。
- 年齢別で見ると、「まちなかの道路等を歩行中」は70歳以上（42.2%）で唯一4割を超えている。「自転車に乗車中」は60～69歳（28.7%）と30～39歳（28.5%）で約3割となっている。

<けがや事故、ヒヤリ体験の場所・状況（上位8項目）>



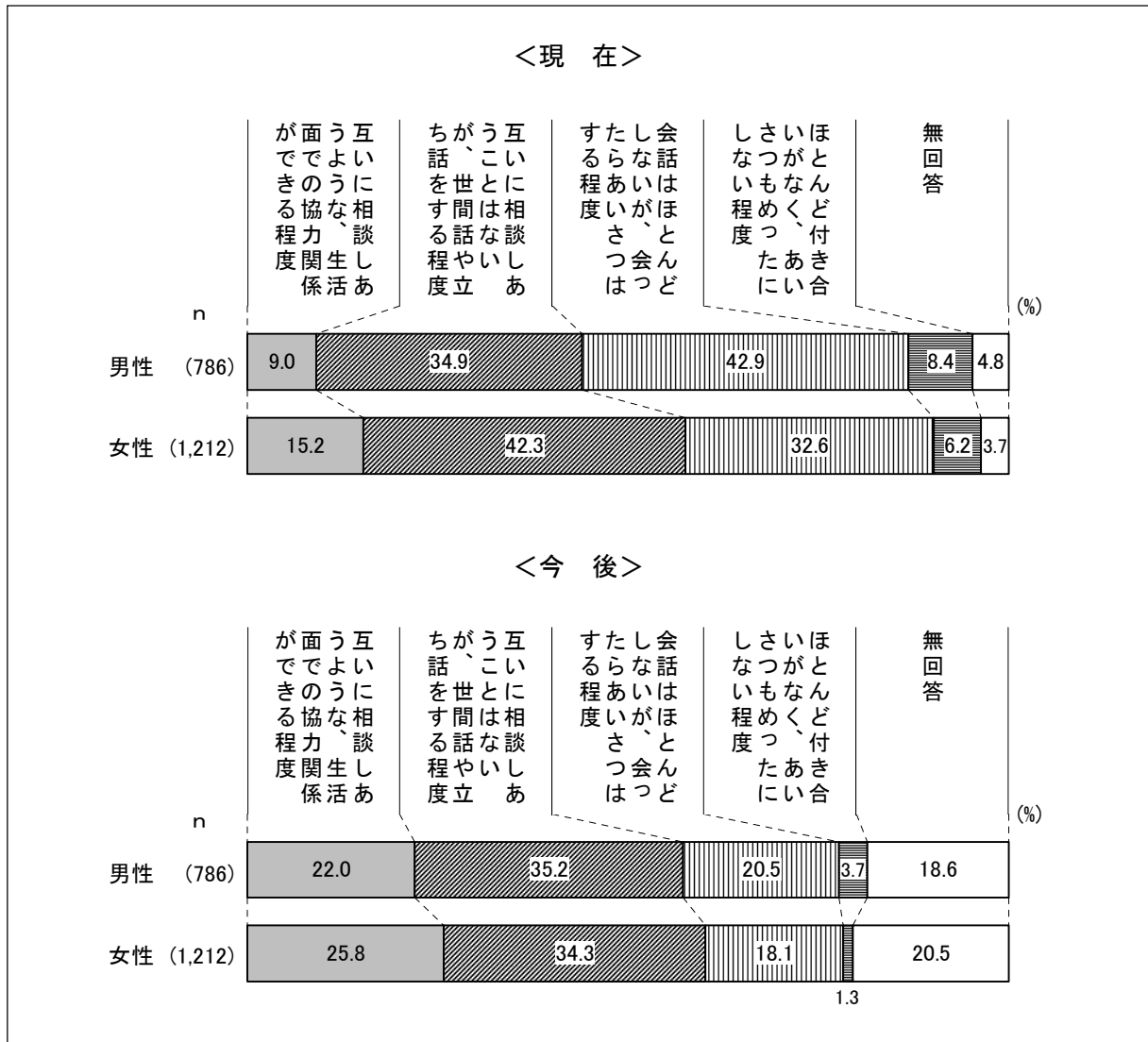
7 近所の方との付き合いの程度〔問11〕

- 近所の方との付き合いの程度について聞いたところ、現在では、「互いに相談しあうことはないが、世間話や立ち話をする程度」(39.3%)が約4割と最も高く、以下、「会話はほとんどしないが、会ったらあいさつはする程度」(36.4%)、「互いに相談しあうような、生活面での協力関係ができる程度」(13.0%)などとなっている。
- 今後では、「互いに相談しあうことはないが、世間話や立ち話をする程度」(34.4%)が3割台半ばと最も高く、以下、「互いに相談しあうような、生活面での協力関係ができる程度」(24.4%)、「会話はほとんどしないが、会ったらあいさつはする程度」(18.9%)などとなっている。
- 現在と今後を比較すると、「互いに相談しあうような、生活面での協力関係ができる程度」は、現在よりも今後の方が11.4ポイント高くなっている。



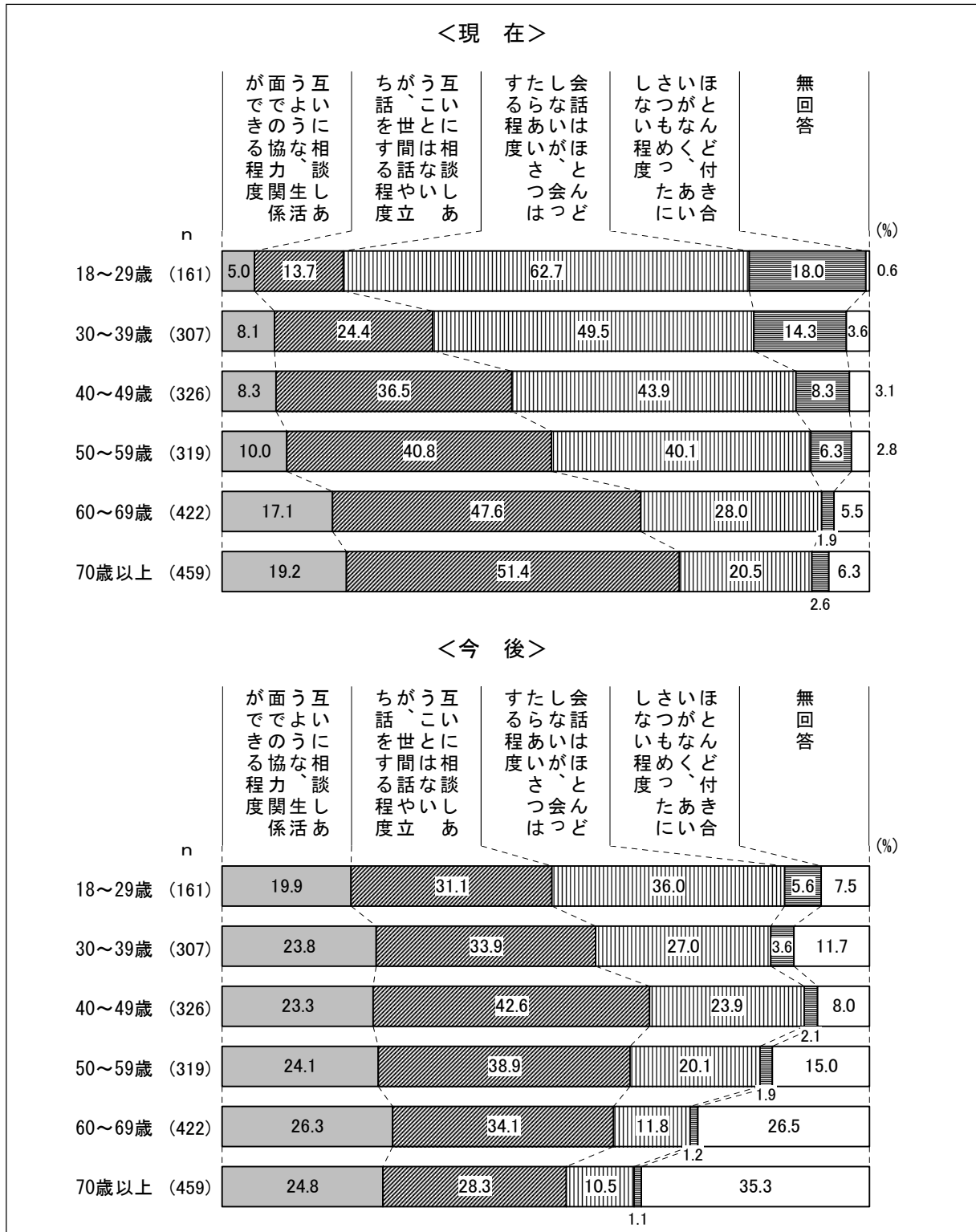
【性別】

- 現在では、「互いに協力しあうような、生活面での協力関係ができる程度」は女性（15.2%）が男性（9.0%）よりも6.2ポイント高く、「互いに相談しあうことはないが、世間話や立ち話をする程度」でも女性（42.3%）が男性（34.9%）よりも7.4ポイント高くなっている。逆に、「会話はほとんどしないが、ちょっとした会話はほとんどない程度」は男性（42.9%）が女性（32.6%）よりも10.3ポイント高くなっている。
- 今後では、「互いに相談しあうような、生活面での協力関係ができる程度」は男女で<現在>よりも高くなっている。



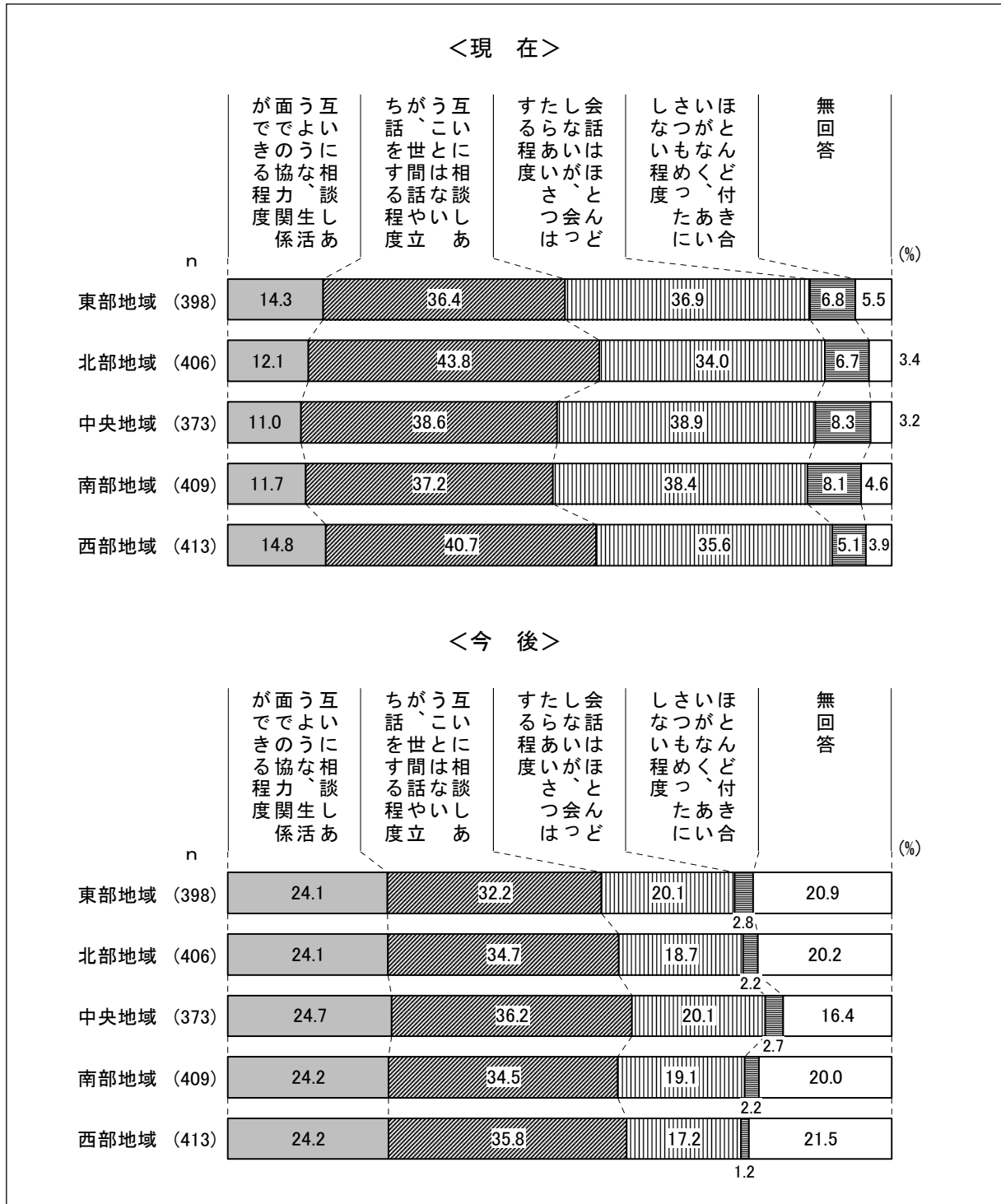
【年齢別】

- <現在>では、「互いに相談しあうような、生活面での協力関係ができる程度」は年齢が上がるほど高くなり、70歳以上（19.2%）で約2割となっている。また、「互いに相談し会うことはないが、世間話や立ち話をする程度」も同様の傾向がみられ70歳以上（51.4%）で唯一5割を超えている。
- <今後>では、「互いに相談しあうような、生活面での協力関係ができる程度」は<現在>よりも全ての年代で高くなっており、20歳代（19.9%）を除く全ての年代で2割台となっている。「互いに相談しあうことはないが、世間話や立ち話をする程度」は40～49歳（42.6%）で唯一4割を超えている。



【地域別】

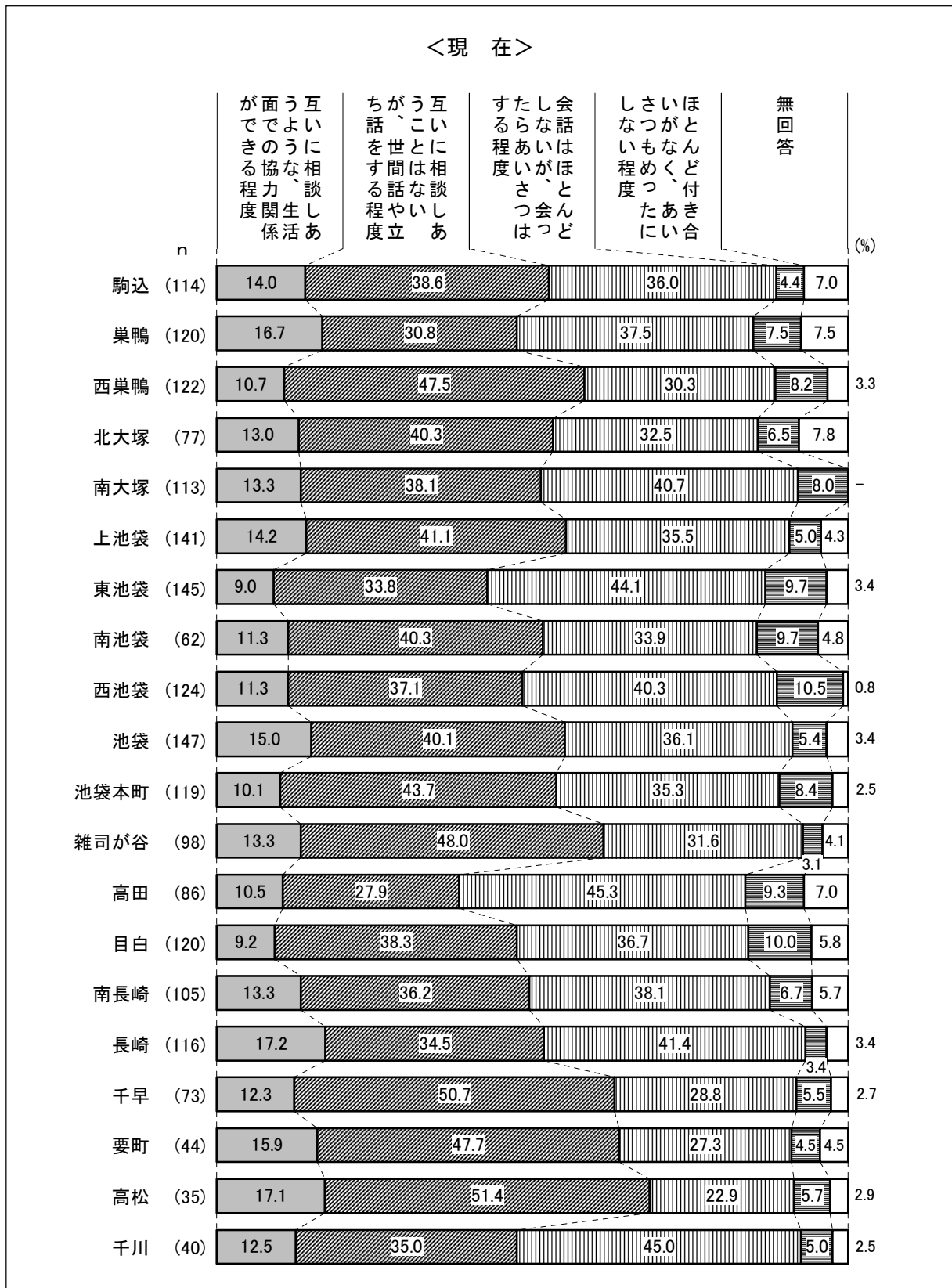
- <現在>では、「互いに相談しあうことはないが、世間話や立ち話をする程度」は北部地域（43.8%）と西部地域（40.7%）で4割台となっている。
- <今後>では、「互いに協力しあうような、生活面での協力関係ができる程度」はどの地域でも現在よりも高くなっている。



※ 地域の具体的区分は3ページの(6)居住地域名を参照

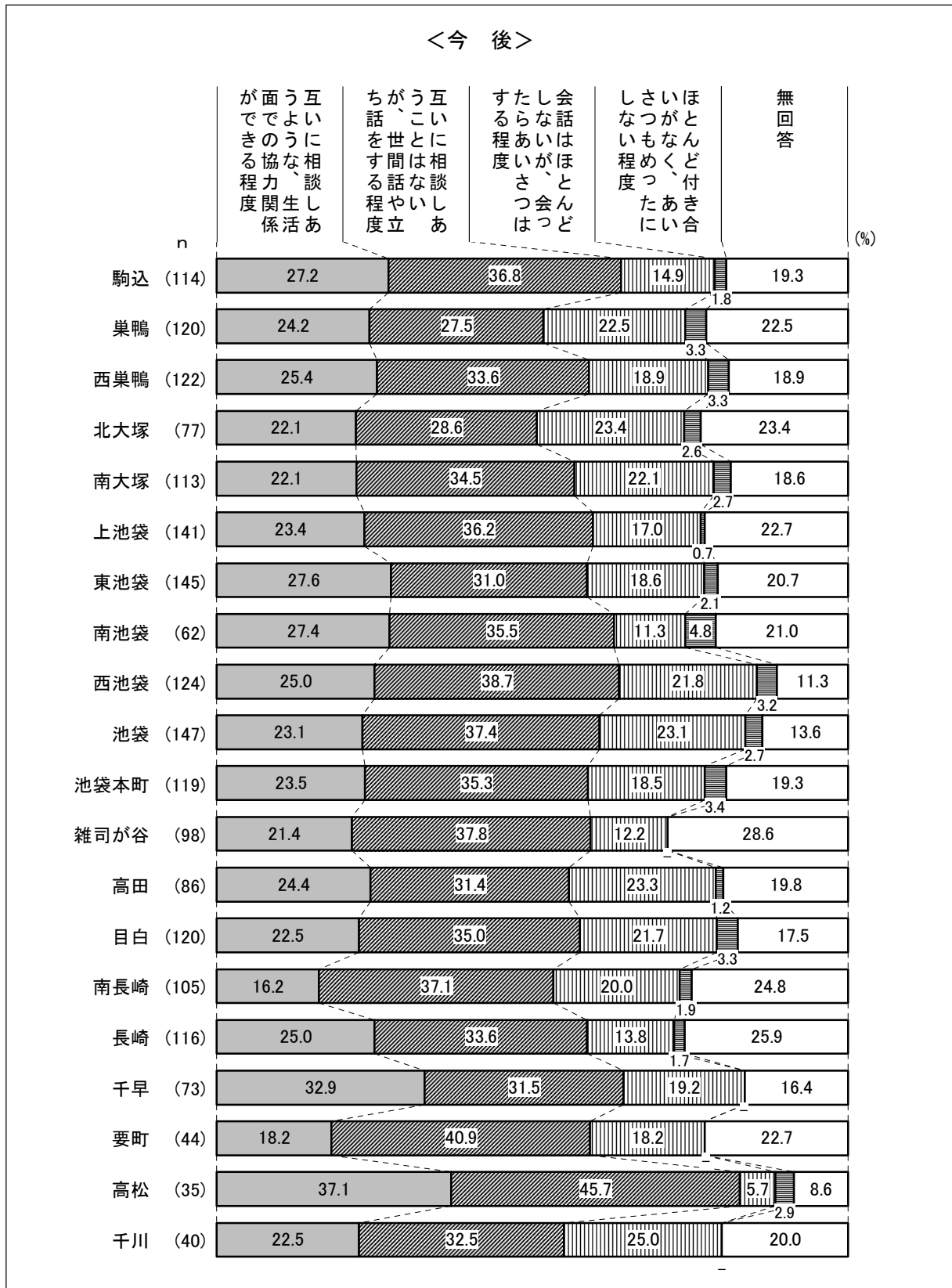
【町別】

- <現在>では、「互いに相談しあうような、生活面での協力関係ができる程度」は長崎（17.2%）と高松（17.1%）、巢鴨（16.7%）で1割台後半となっている。



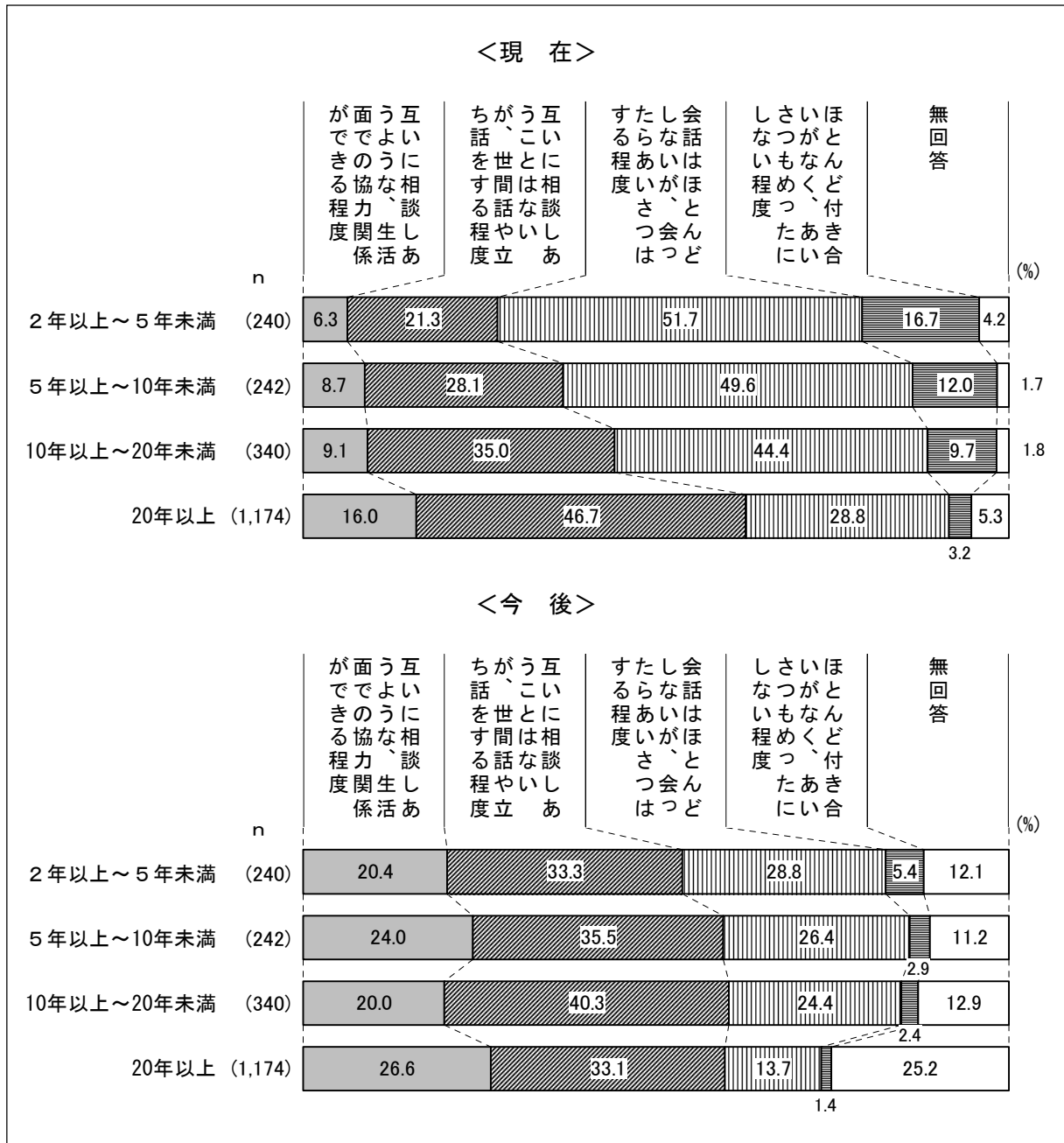
【町別】

- <今後>では、全ての町で「互いに相談しあうような、生活面での協力関係ができる程度」は<現在>よりも高くなっている。



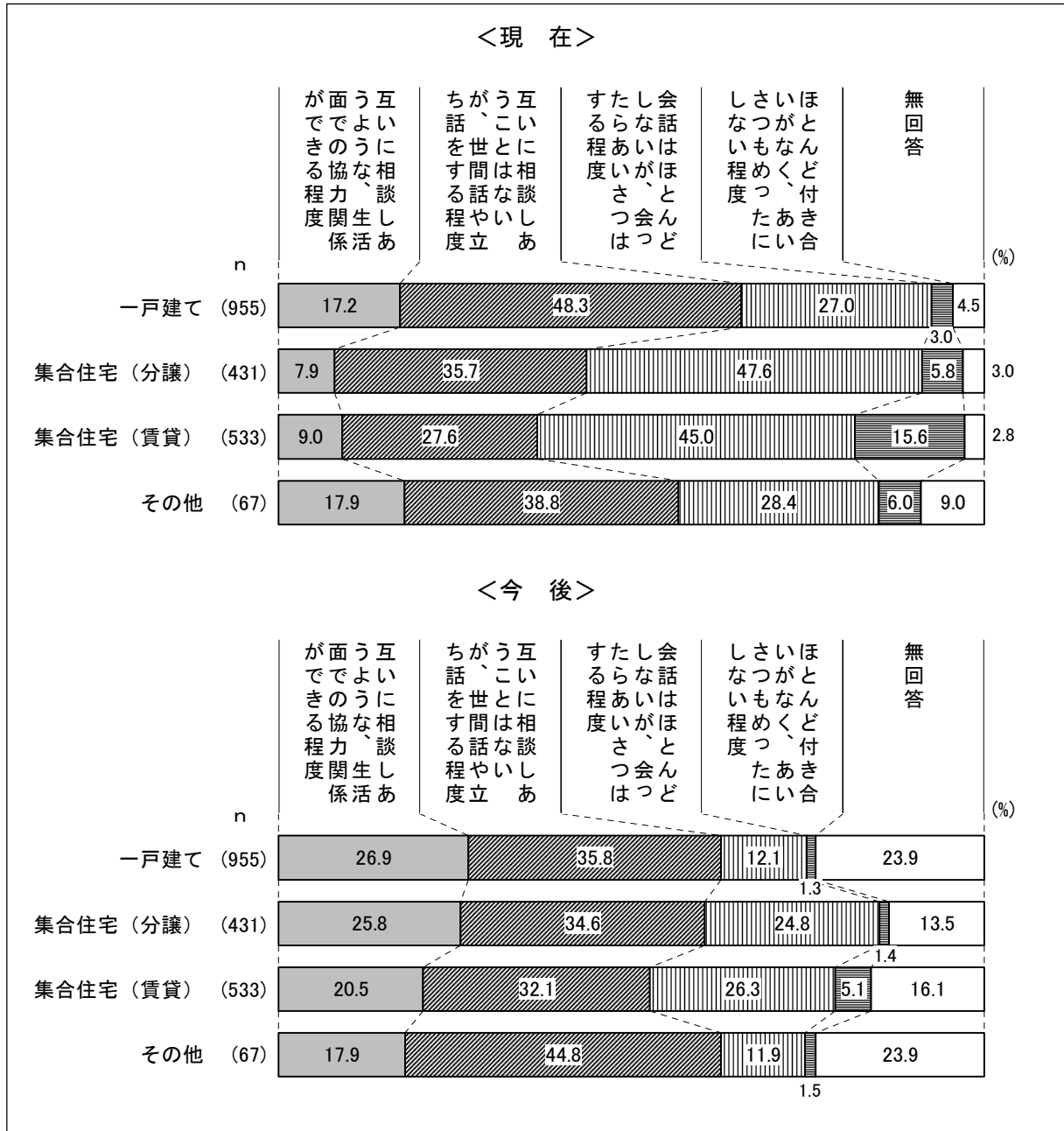
【居住年数別】

- <現在>では、「互いに協力しあうような、生活面での協力関係ができる程度」は居住年数が長くなるほど高くなり、「互いに相談しあうことはないが、世間話や立ち話をする程度」も同様の傾向がみられ、20年以上では合計すると62.7%と高い割合となっている。逆に、「会話はほとんどしないが、会ったらいさつはする程度」と「ほとんど付き合いがなく、あいさつもめったにしない程度」は居住年数が短くなるほど高くなっている。
- <今後>では、「互いに相談しあうような、生活面での協力関係ができる程度」は、居住年数の長さに関わらず、<現在>よりも高くなっている。



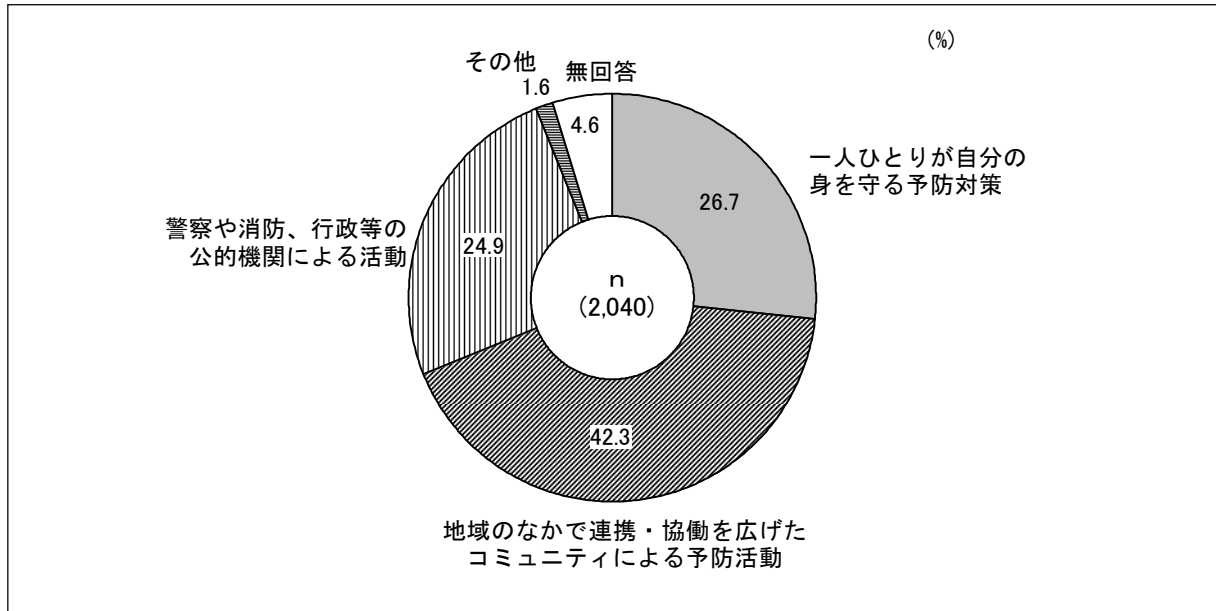
【住まい形態別】

- <現在>では、「互いに相談しあうような、生活面での協力関係ができる程度」と「互いに相談しあうことはないが、世間話や立ち話をする程度」の合計では一戸建てが65.5%と最も高くなっている。
- <今後>では、「互いに相談しあうような、生活面での協力関係ができる程度」はどの住まい形態でも<現在>よりも高くなっている。



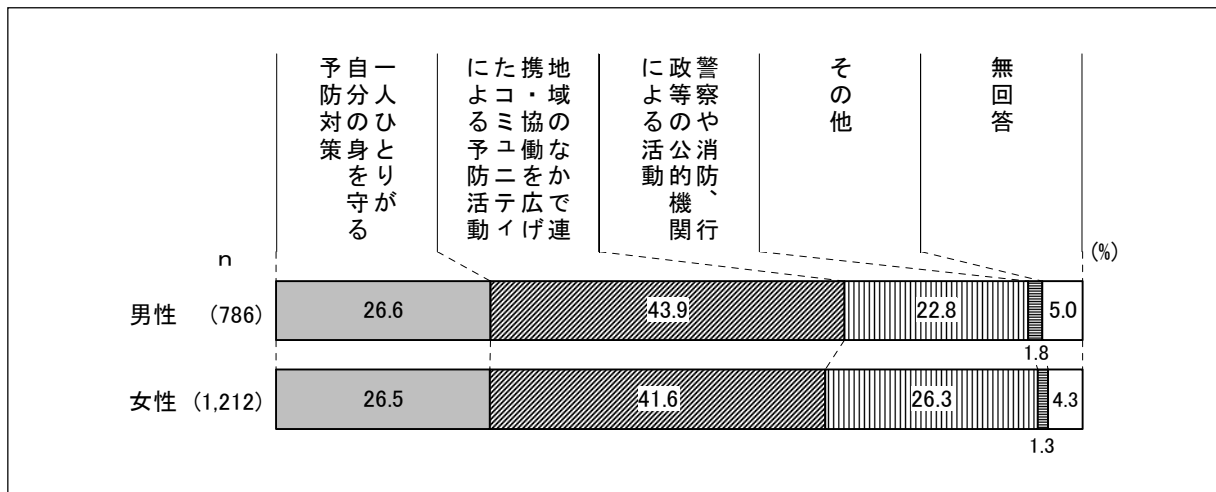
8 地域の安全・安心を守るために重要になること〔問12〕

- 地域の安全・安心を守るために重要になることについて聞いたところ、「地域のなかで連携・協働を広げたコミュニティによる予防活動」(42.3%)が4割を超えて最も高く、以下、「一人ひとりが自分の身を守る予防対策」(26.7%)、「警察や消防、行政等の公的機関による活動」(24.9%)などとなっている。



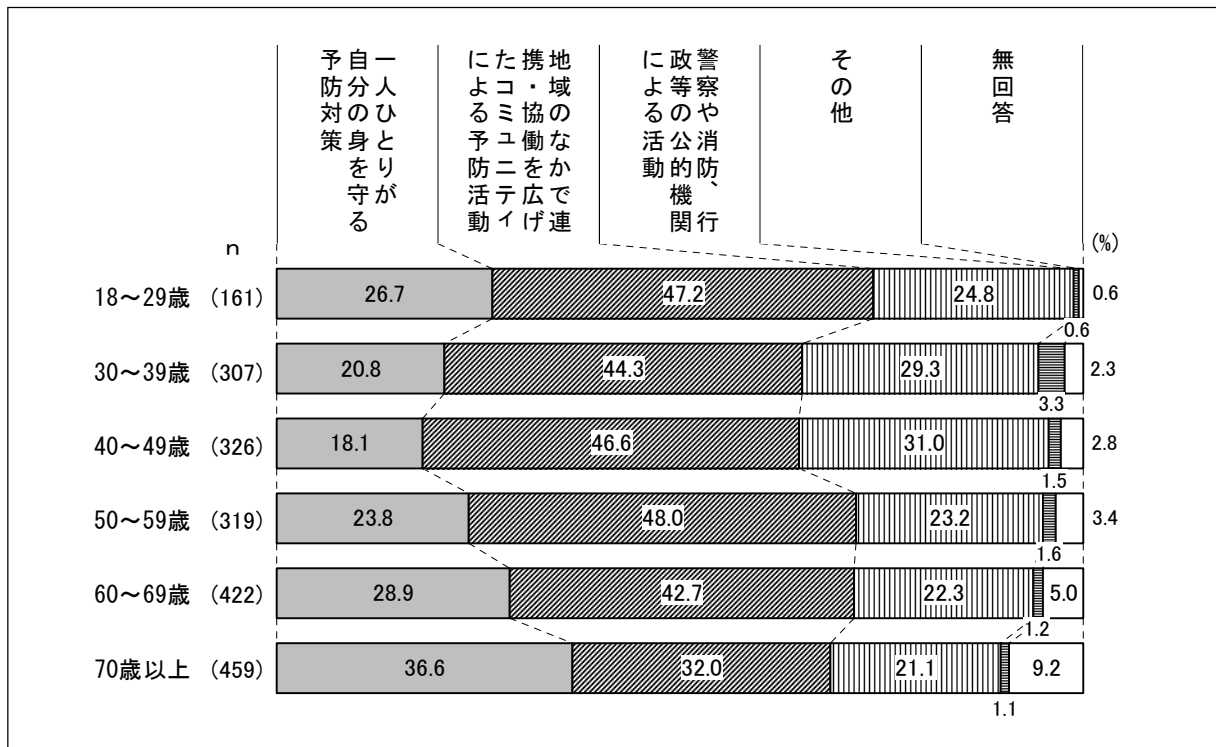
【性別】

- 全ての項目で大きな違いはみられない。



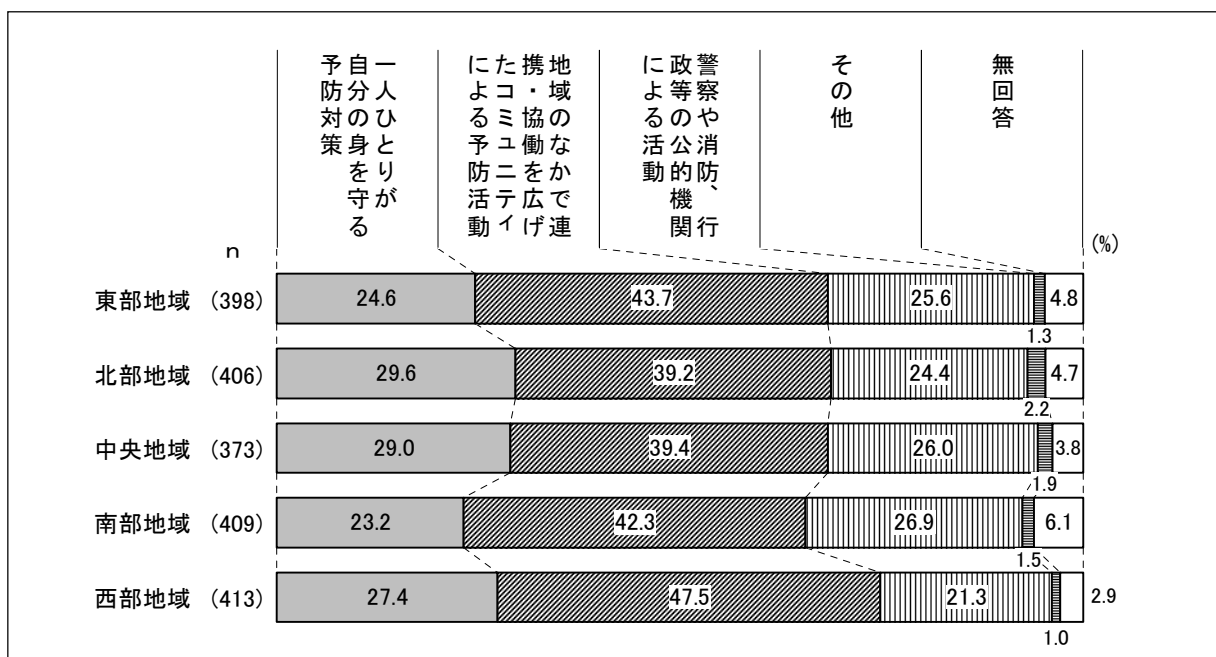
【年齢別】

- 「一人ひとりが自分の身を守る予防対策」は70歳以上（36.6%）で3割台半ばとなっている。
- 70歳以上を除き、「地域のなかで連携・協働を広げたコミュニティによる予防活動」が「一人ひとりが自分の身を守る予防対策」よりも高くなっている。



【地域別】

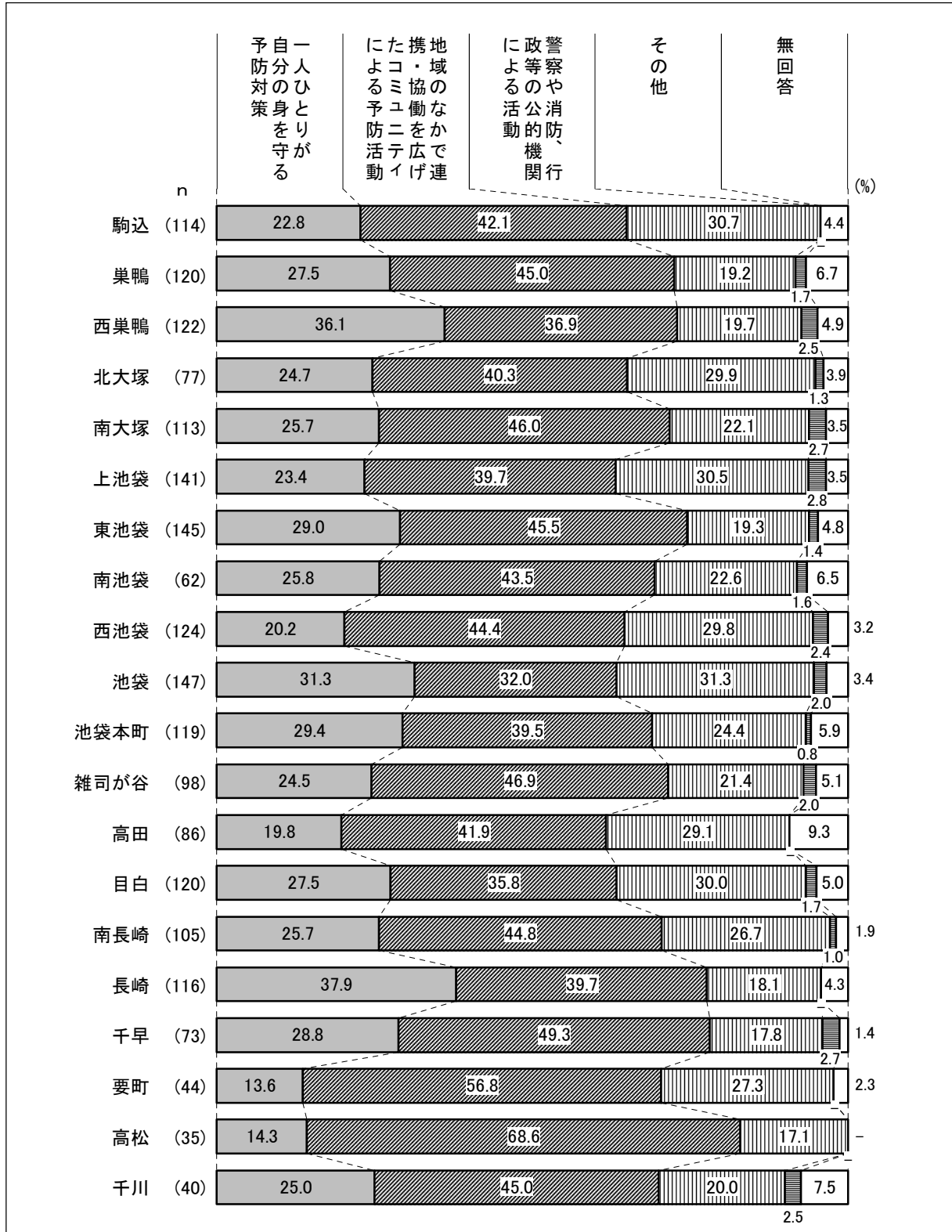
- 「一人ひとりが自分の身を守る予防対策」は北部地域（29.6%）と中央地域（29.0%）で約3割となっている。
- 「地域のなかで連携・協働を広げたコミュニティによる予防活動」は西部地域（47.5%）が最も高くなっている。



※ 地域の具体的区分は3ページの(6)居住地域名を参照

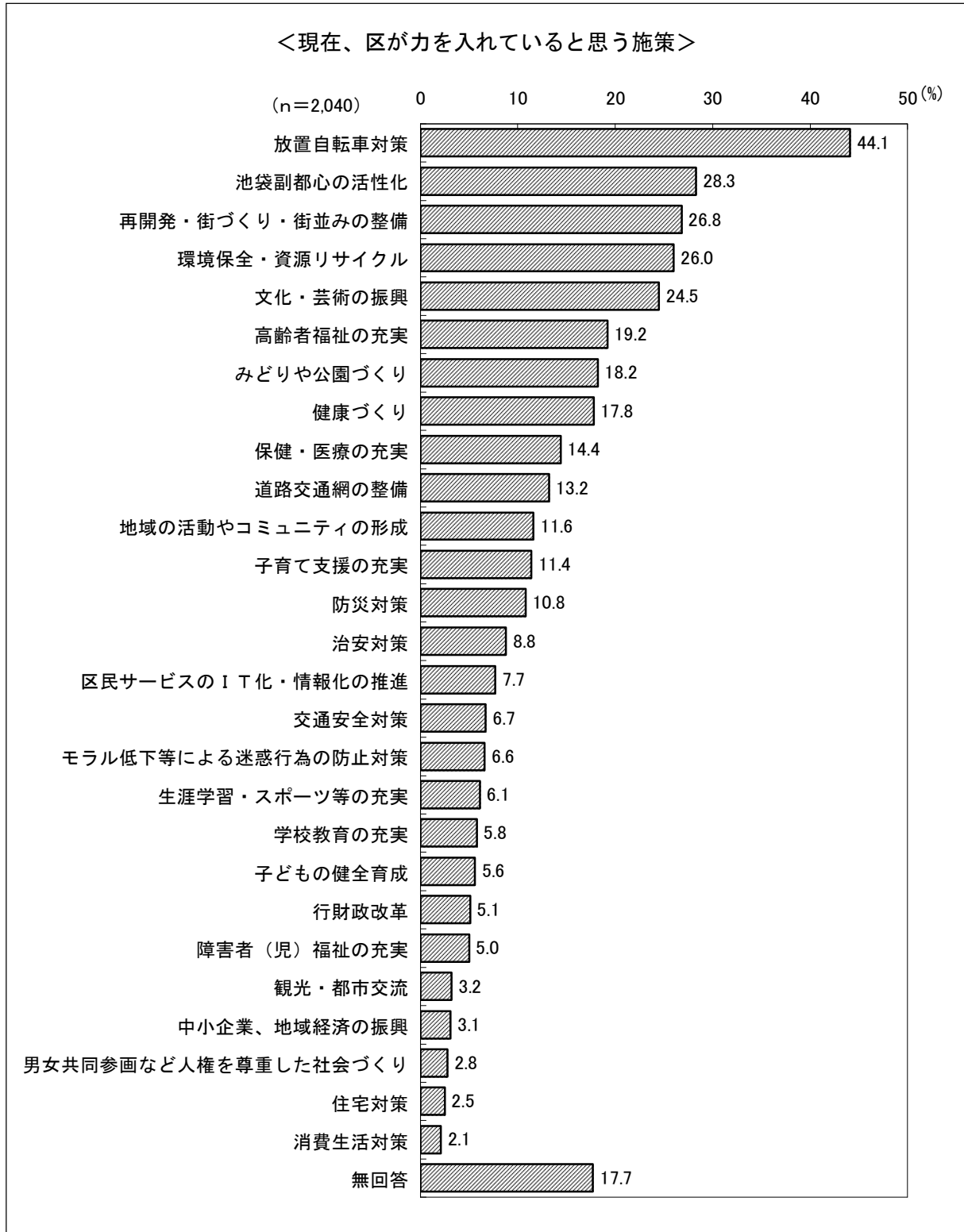
【町別】

- 「一人ひとりが自分の身を守る予防対策」は長崎（37.9%）と西巢鴨（36.1%）で高くなっている。
- 「地域のなかで連携・協働を広げたコミュニティによる予防活動」は高松（68.6%）で約7割と最も高くなっている。

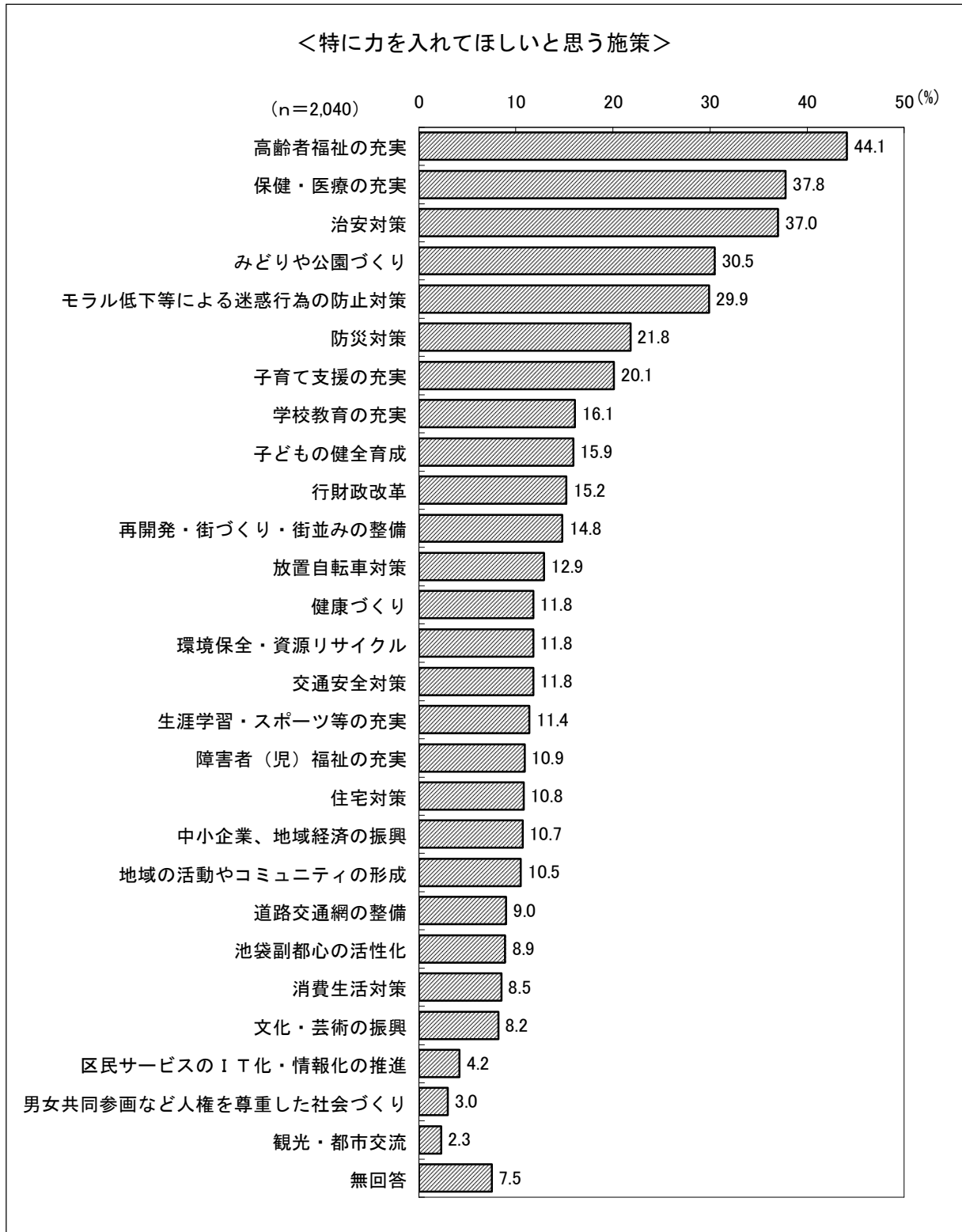


9 区政全般への要望〔問13〕

- 区政全般への要望について聞いたところ、現在、区が力を入れていると思う施策は、「放置自転車対策」(44.1%)が4割台半ばと最も高く、以下、「池袋副都心の活性化」(28.3%)、「再開発・街づくり・街並みの整備」(26.8%)などとなっている。



- 特に力を入れてほしいと思う施策は、「高齢者福祉の充実」(44.1%)が4割台半ばと最も高く、「保健・医療の充実」(37.8%)、「治安対策」(37.0%)などとなっている。



【経年比較】

- 前回の調査と比較すると、上位10項目中で、平成19年度よりも順位が高くなったものは、「保健・医療の充実」「みどりや公園づくり」「子育て支援の充実」「学校教育の充実」「行財政改革」となっている。
- 上位10項目中で、平成19年度よりも順位が低くなったものは、「治安対策」「モラル低下等による迷惑行為の防止対策」「防災対策」「子どもの健全育成」となっている。

<平成22年度>

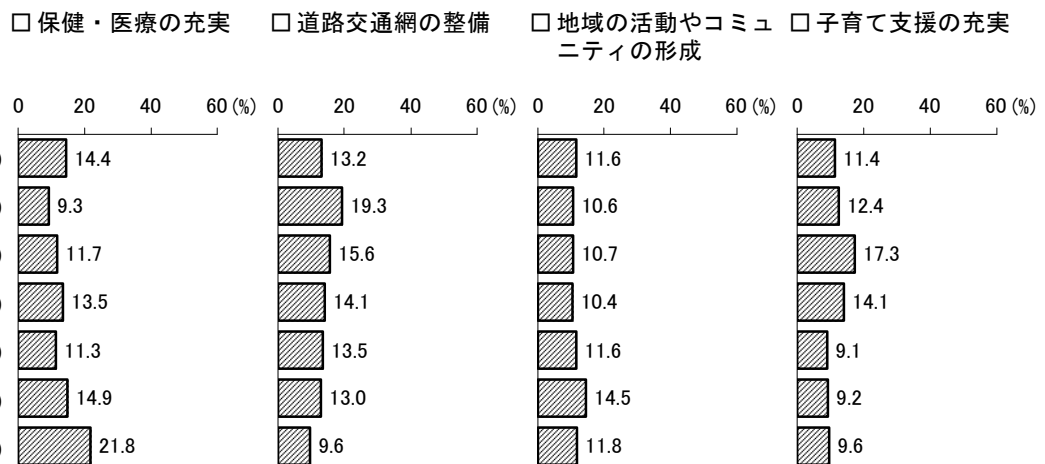
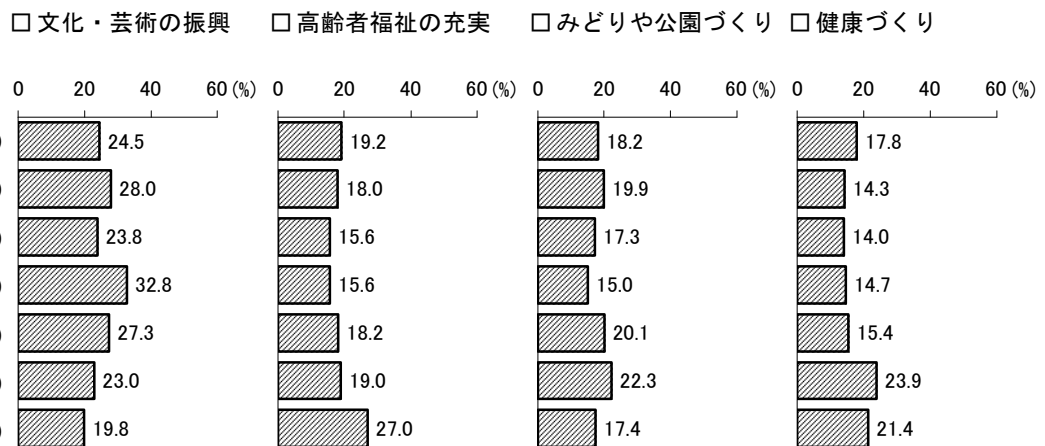
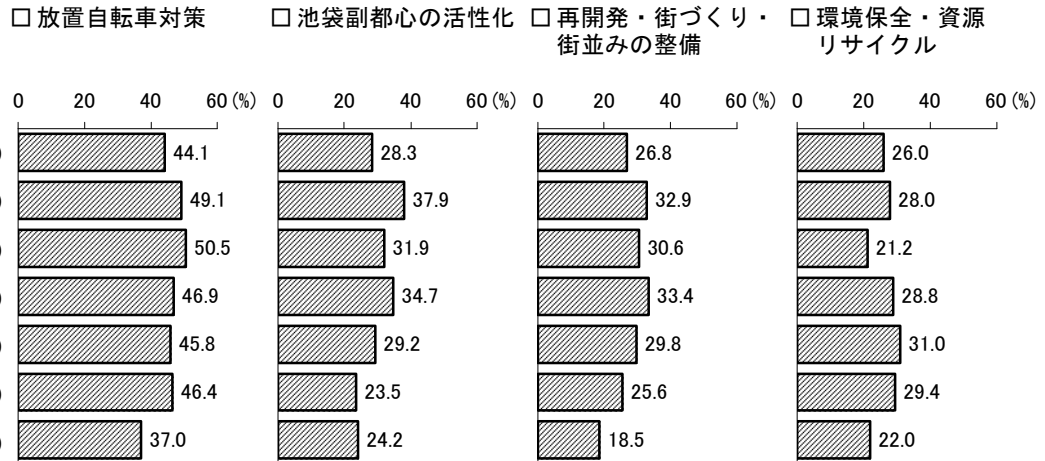
<平成19年度>

順位	施策	%	順位比較	順位	%
1	高齢者福祉の充実	44.1	←	1	45.5
2	保健・医療の充実	37.8	↑	4	35.3
3	治安対策	37.0	↓	2	43.0
4	みどりや公園づくり	30.5	↑	6	33.1
5	モラル低下等による迷惑行為の防止対策	29.9	↓	3	37.9
6	防災対策	21.8	↓	5	34.9
7	子育て支援の充実	20.1	↑	9	19.3
8	学校教育の充実	16.1	↑	10	19.0
9	子どもの健全育成	15.9	↓	8	19.9
10	行財政改革	15.2	↑	13	14.1
11	再開発・街づくり・街並みの整備	14.8	↑	12	17.0
12	放置自転車対策	12.9	↓	7	25.8
13	健康づくり	11.8	↑	17	11.8
14	環境保全・資源リサイクル	11.8	↓	11	18.0
15	交通安全対策	11.8	↑	19	10.9
16	生涯学習・スポーツ等の充実	11.4	↓	14	13.4
17	障害者（児）福祉の充実	10.9	↓	15	13.1
18	住宅対策	10.8	↓	16	12.5
19	中小企業、地域経済の振興	10.7	↓	18	11.3
20	地域の活動やコミュニティの形成	10.5	↑	22	7.7
21	道路交通網の整備	9.0	↑	23	7.7
22	池袋副都心の活性化	8.9	↓	20	9.7
23	消費生活対策	8.5	↑	24	6.9
24	文化・芸術の振興	8.2	↓	21	9.6
25	区民サービスのIT化・情報化の推進	4.2	←	25	5.2
26	男女共同参画など人権を尊重した社会づくり	3.0	↑	27	1.3
27	観光・都市交流	2.3	↓	26	1.6

【年齢別】

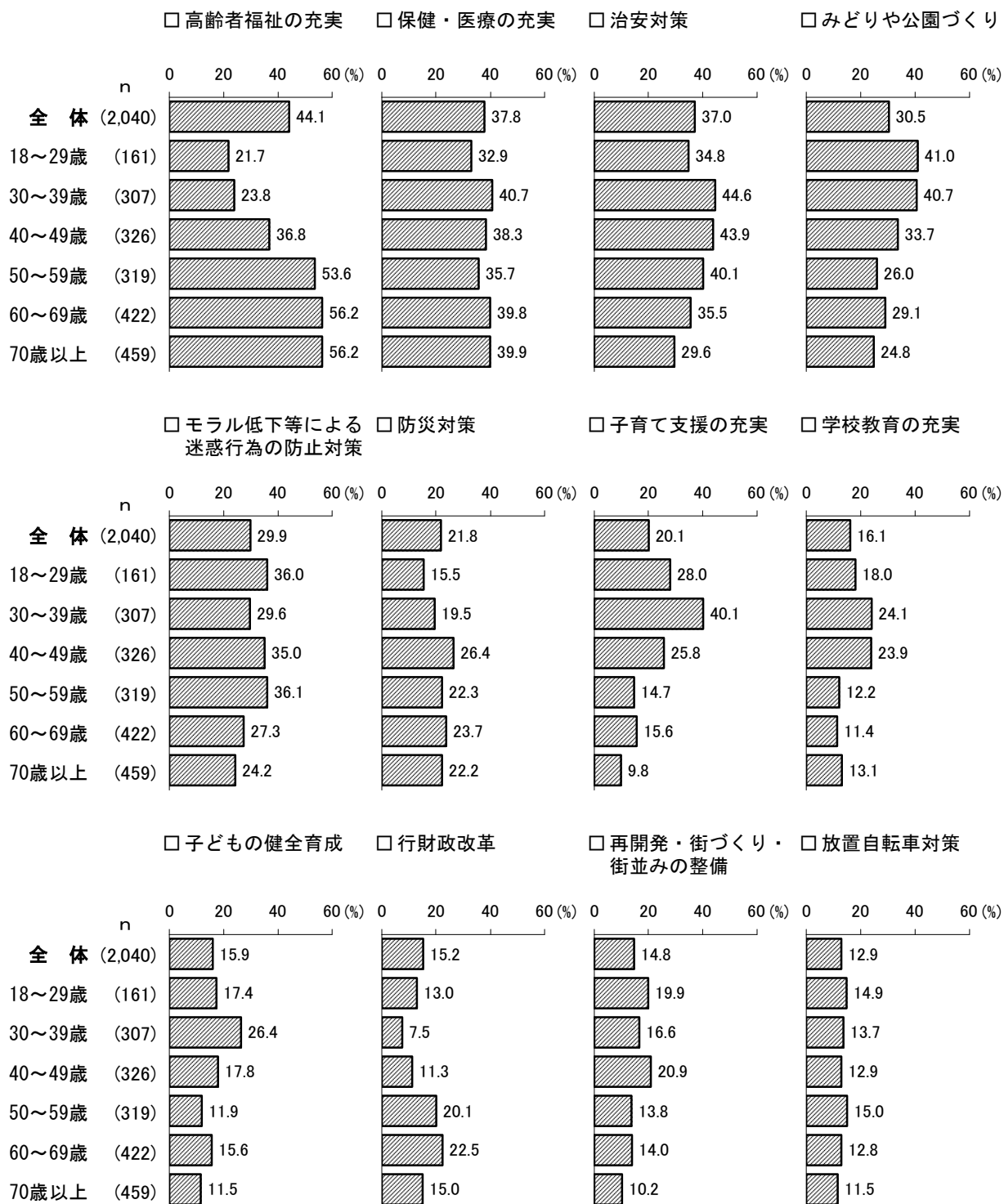
- 「放置自転車対策」は70歳以上（37.0%）を除く全ての年齢で4割を超えている。
- 「池袋副都心の活性化」は18～29歳（37.9%）で最も高く、40～49歳（34.7%）、30～39歳（31.9%）などと続いている。

<現在、区が力を入れていると思う施策（上位12項目）>



- 「高齢者福祉の充実」は年齢が上がるほど高くなり、60歳以上（56.2%）で5割台半ばとなっている。
- 「治安対策」は18～29歳（34.8%）を除いて年齢が下がるほど高くなり、30～39歳（44.6%）と40～49歳（43.9%）で4割台半ばとなっている。

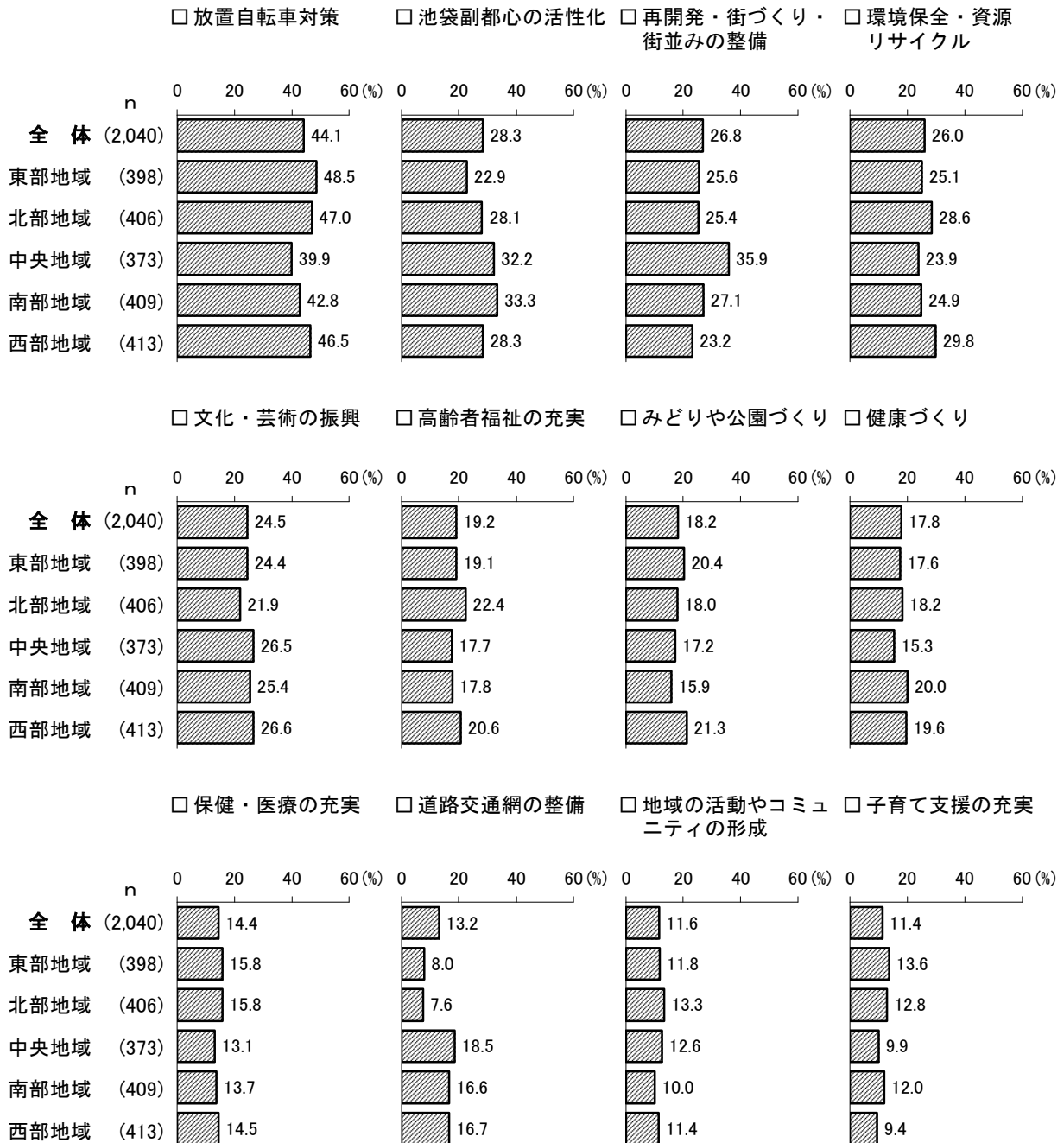
<特に力を入れてほしいと思う施策（上位12項目）>



【地域別】

- 「放置自転車対策」は東部地域（48.5%）で約5割となっている。
- 「池袋副都心の活性化」は南部地域（33.3%）と中央地域（32.2%）で3割台となっている。
- 「再開発・街づくり・街並みの整備」は中央地域（35.9%）で3割台半ばとなっている。

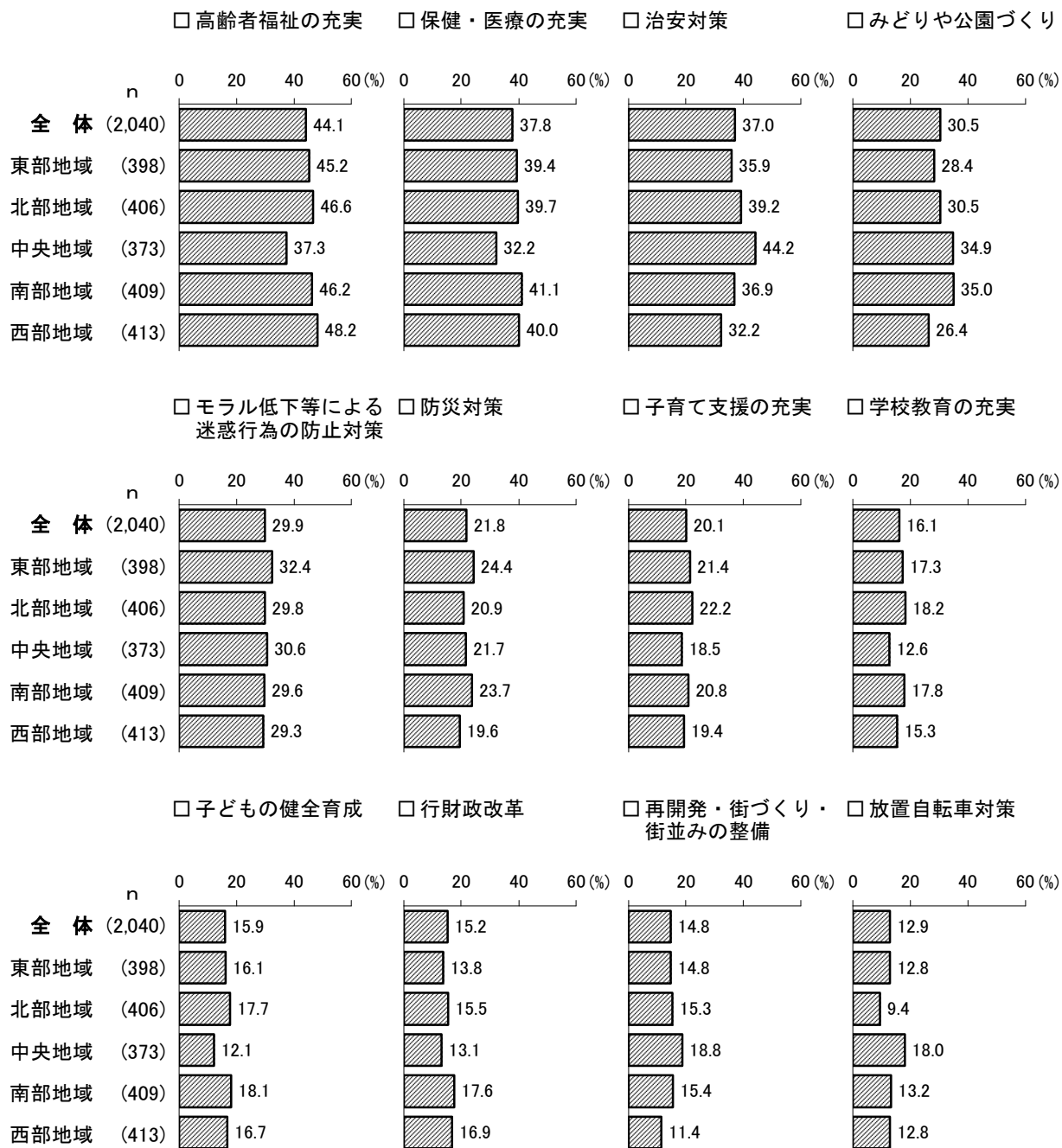
<現在、区が力を入れていると思う施策（上位12項目）>



※ 地域の具体的な区分は3ページの(6)居住地域名を参照

- 「高齢者福祉の充実」は中央地域（37.3%）で唯一3割台となっている。
- 「保健・医療の充実」も中央地域（32.3%）で唯一3割台前半となっている。

<特に力を入れてほしいと思う施策（上位12項目）>



※ 地域の具体的区分は3ページの(6)居住地域名を参照

● 総合分析

「現在、区が力を入れていると思う施策（現在の評価）」と「特に力を入れてほしいと思う施策（今後の優先度）」の調査結果を下記により数値化し、この二つの評価を軸として、総合分析を行った。

【数値化の方法】
 それぞれの設問について、下記のとおり数値化した。

- 現在の評価
各項目の回答割合（％）
- 今後の優先度
各項目の回答割合（％）

このグラフで右下に位置していればいるほど、「現在の評価が低い、今後の優先度は高い」ことになり、改善に向けて力を入れていく必要があるということになる。

- 現在の評価が低い、今後の優先度は高い項目は、優先度が高い順に「高齢者福祉の充実」「保健・医療の充実」「治安対策」となっている。

